



福島地区連合 20年の記録

20th
Anniversary



福島地区連合 20年の記録

20th
Anniversary

◆ごあいさつ	2
福島地区連合会 議長 紺野孝幸	
◆ご祝辞	3
連合福島 会長 影山道幸 様	
福島市 市長 瀬戸孝則 様	
◆年表 福島地区連合 20年の歴史	4
◆歴代議長・歴代役員	17
◆県北地域連合歴代役員	24
◆東日本大震災と福島地区連合の 取り組みについて	27
◆資料	39



結成20周年を迎えて

連合福島 福島地区連合会 議長

紺野 孝幸

福島地区連合は、1992年3月に結成され、連合福島の地区の組織として「顔合わせ」「心合わせ」そして「力合わせ」をスローガンに、ゆとり・豊かさ・社会公正の実現のため諸活動を展開し、20周年を迎えることが出来ました。

これもひとえに、連合福島と構成組織の皆様の支えに拠るものであり深く感謝申し上げます。

さて、この20年を振り返りますと、日本経済は1990年代初頭にバブル経済が崩壊して以降、約20年もの長期にわたって低迷を続け未だにデフレ経済を脱却できず、1990年代後半から始まった雇用・労働分野の急激な規制緩和によって、非正規雇用労働者は1700万人を超えるまでに増大し、日本の雇用労働者の3割以上を占めることとなりました。

そして、2011年3月11日には、東日本大震災が発生し観測史上最大のM9を記録さらに、東京電力福島第一原子力発電所で発生した事故の複合災害により、放射性物質が飛散するなど、今までに経験のない事態が起き、市民の安全・安心を大きく脅かすところとなり、未曾有の被害となりました。私たち労働者が働く企業、そして、家族も大きく被災しましたが、多くの支援により、今もなお道半ばではありますが、復興に向け努力を続けています。

福島地区連合の歴史を振り返りますと、組織面では、この20年間に組織統合や事業所の閉鎖・廃止、移転等により地区連合からの脱退、各加盟組織における組合員の減少から結成当時約22,000名を有した地区連合組合員数も現在では、約16,000名となりました。

運動面では「制度政策要求と提言の取り組み」を地区連合の重点活動と捉え、福島市との定期協議会を開催してまいりました。また、時代背景を捉えた大衆行動や政策実現に向けた政治活動の強化、そして県北地域青年・女性連絡会の活動強化や政治政策フォーラム議員との連携や県北地域高退連との関係強化などに取り組んできました。

文化活動では、囲碁、将棋大会を開催。また、社会貢献活動では、就労支援を行う授産施設に電化製品を寄贈するなど、この20年間、福島地区連合の存在価値を高めるための活動にも取り組んできました。

いま連合は、「地域に根ざした顔の見える運動の構築」を進めています。具体的に言えば、地域の労働者に信頼され頼りがいのある連合運動の構築が求められています。

結びに、20周年記念を契機に、福島地区連合がさらなる飛脚を遂げるよう邁進する決意でありますので、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。



ご祝辞

連合福島 会長

影山 道幸 様

「平和 しあわせ 道ひらく」のスローガンを掲げ、「顔合わせ」から始まった福島地区連合結成から早20年、ようやく成人を迎えたことについて心からお祝いを申し上げます。結成以来今日まで連合運動を地域でご尽力、ご努力頂いた関係各位の皆さんに改めて敬意を表します。また、結成当時、労働組合を統一に導き、今日の連合活動を支えて頂いた諸先輩の皆様に、改めて感謝申し上げます。

この20年を振り返ると、労働運動をめぐる状況は、政治・経済・社会・文化などあらゆる領域で大きな変化に直面し、幾多の困難に直面してきました。

その時々時代の背景、環境の変化に試行錯誤を繰り返しながら幅広い運動を積み重ね、希望と安心の社会づくりのため福島地区連合が結束力を強められ、連合運動の前進のために、日々努力を積み重ねられ、地域社会で確固たる地位を築き上げてこられました。そのような中、2011年3月11日の東日本大震災では、かつて経験をしたことのないような未曾有の被害が生じました。国難とも言うべき事態に遭遇したのであります。労働運動の社会的使命として、復興と再生に向けて、連帯と支え合いの精神で一致結束して各種取組みに参画をし、社会的責務を果たしてきた行動は、顔の見える運動として高く評価されました。

私たちは20年を契機に自らの課題として、さらに存在感ある労働運動を地域中で創っていくことが必要です。1995年以降、「地域に根差した顔の見える運動」を展開し頼りになる運動を構築しておりますが、未だ道半ばにあります。

福島地区連合が20年の節目を契機に、その重要な使命の全うに向け、限りなく前進を遂げられますことを心より祈念し、お祝いの挨拶とします。



ご祝辞

福島市 市長

瀬戸 孝則 様

連合福島 福島地区連合会が結成20周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

1991年に福島地区連合会が結成され、その後の20年を振り返りますと、日本経済は、いわゆる「失われた20年」として、バブル崩壊、リーマンショックによる世界的な金融不況など非常に厳しい経済情勢下におかれ、さらには、ようやく回復の兆しを見せ始めた経済情勢も東日本大震災、原発事故とこれまで経験したことのない、未曾有の災害にみまわれるなど、その中の活動には、大変なご苦労があったものと推察します。

その様な中、常に労働者の先頭に立ち、雇用と生活を守るためにご尽力されてこられましたことに深く敬意を表するとともに、震災直後の被災者対応や、震災からの強い復興を願い当市において開催された東北六魂祭におきましては、ボランティアを組織され、さまざまご支援を頂戴しましたことに対し、深く感謝を申し上げる次第であります。

本市としましては、市民の健康を守り、一日も早く以前の生活が取り戻せるよう、除染を大車輪で進めるとともに、将来への明るい希望が持てるよう、震災からの復興と再生に全力で取り組んでいるところであります。そのためには、官民一体となった取組みが重要と考えておりますので、今後におきましても、皆様からの変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、福島地区連合会の益々のご発展と組合員の皆様のご活躍を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

【年表】 福島地区連合20年の歴史

1989年11月21日、80年代労働運動の最大の課題であり、悲願であった労働戦線の統一が実現し、日本労働組合総連合会(連合)が発足しました。

福島県内においては、「連合」が発足した翌年の3月1日、日本労働組合総連合会福島県連合会(連合福島)が発足。その下部組織として県内6地域に組織された地域連合の一つとして「県北地域連合」が1991年2月18日に結成されました。

そして、1992年3月13日、県内労働界のローカルセンター「連合福島」の地区組織として「福島地区連合」が結成されました。

福島地区連合結成大会

1992年 (平成4年) 3月13日

ホテル福島グリーンパレス

1991年2月18日には「県北連合」官民統一大会を開催することができました。

以来、連合福島の指導のもと「福島地区連合結成準備会」を結成し諸準備をすすめ、連合の末端組織として「福島地区連合」を結成しました。33準備会構成組織・22,000名の原動力となったのは、行政に対する「ゆとり宣言」要請行動、採択。最低賃金関係の街頭宣伝活動でした。



▲県北青年連絡会第4回列島グリーンキャンペーン(9月6日)



▲地域-地区連合役員研修会(11月19日)いわき

福島地区連合第2回年次大会

1993年 (平成5年) 3月12日

福島県労働福祉会館

労働者の生活と職場の実態、実感をしっかり受け止め、「賃上げ」「労働時間の短縮」、「政策制度の改善」の三本柱で総合生活の改善に全力をあげ、特に時短では年「1,800時間」に向けた方針が出されました。

❖ 第16回参議院議員選挙結果 (1992年7月8日公示・26日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	鈴木省吾(自民・現・80歳)		265,650
当選	佐藤静雄(自民・新・60歳)		262,817
	渋谷家寿一(連合・新・55歳)	連合型	245,309
	渡辺新二(無所属・新・39歳)		66,619
	佐藤克朗(共産党・新・37歳)		58,411

❖ 第14回福島県知事選挙結果 (1992年8月17日告示・9月6日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤栄佐久(無所属・現・53歳)	推薦	879,475
	後藤勝彦(共産党・新・50歳)		80,044



▲連合福島推薦の佐藤栄佐久氏の(2期目)圧勝



▲93春季生活闘争勝利総決起集会

福島地区連合第3回定期大会

1993年 (平成5年) 12月3日

福島県労働福祉会館

第40回総選挙の結果、38年に及び自民党長期単独政権から非自民連立政権誕生という歴史的な政治状況の変化が起きました。

一方、バブル崩壊により一転して平成不況となり、個人消費の低迷、民間設備投資の減退等に加え、円高が追い打ちをかけた。

❖ 福島市長選挙結果 (1993年10月31告示・11月7日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	吉田修一 (無所属・現・66歳)	推薦	75,272
	山崎満子 (無所属・新・55歳)		11,409



▲吉田修一福島市長選挙に圧勝

福島地区連合第4回年次大会

1994年 (平成6年) 12月8日

福島県労働福祉会館

構成組織の果たす役割と、福島地区連合の果たす役割を明確にし、各課題の前進を図るため、従来からの取り組みを進めてきた課題については更に豊富化を図り、新たな課題に対しては、一步一步前進がはかれるよう機関運営を重視し、全体で活動が進められるよう取り組むことになりました。



▲北方領土返還要求派遣団 北海道根室市(9月30日)



▲第65回福島県中央メーデー

福島地区連合第5回定期大会

1995年 (平成7年) 11月29日

福島県労働福祉会館

激動と混迷が続く厳しい情勢のなかで、私たちは広範な運動を展開してきましたが、春季生活闘争は総合生活改善をめざし賃上げ・時短・政策制度改善の3本柱で取り組みました。

一方組織拡大は私たちにとって最重要課題であり、本年、県北連合管内では「グリーンピア二本松労働組合」が誕生し、レジャー・サービス連合として連合福島加盟を果たすことができました。

❖ 福島県議会議員選挙 (1995年3月31日告示・4月9日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	加藤雅美 (社会党・新・45歳)	推薦	無投票
当選	伴場忠彦 (社会党・新・59歳)	推薦	無投票

❖ 福島市議会議員選挙 (1995年4月16日告示・4月23日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	小林義明 (新進党・現・57歳)	推薦	3,462
当選	押部米哉 (社会党・新・48歳)	推薦	3,052
当選	高橋英夫 (新進党・現・44歳)	推薦	2,853
当選	遠藤 一 (社会党・現・58歳)	推薦	2,661
当選	阿部保衛 (社会党・現・54歳)	推薦	2,649
当選	伊東忠三 (無所属・現・59歳)	推薦	2,167
当選	佐藤保彦 (社会党・現・51歳)	推薦	1,888
当選	佐藤智子 (社会党・現・51歳)	支持	3,237
当選	木村六朗 (社会党・現・54歳)	支持	3,233



▲最低賃金引き上げ街頭署名活動

❖ 第17回参議院議員通常選挙 (1995年7月6日公示・7月23日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	太田豊秋 (自民党・現・60歳)		284,238
当選	和田洋子 (新進党・新・53歳)	推薦	263,878
	会田長栄 (社会党・現・66歳)	推薦	196,502
	佐藤克郎 (共産党・新・40歳)		49,670
	谷田栄子 (諸 派・新・47歳)		18,651



▲核実験全面禁止・日米地位協定見直し集会 (11月7日)

福島地区連合第6回年次大会

1996年 (平成8年) 12月11日

福島県労働福祉会館

完全失業者が220万人台で推移し今年4月には完全失業率が3.5%と史上最悪の水準を記録しました。

「福島県農林漁業団体職員労働組合連合(略称:全国農団労)」が結成され、新ふくしま農協労組が連合福島に加盟しました。

❖ 第15回福島県知事選挙結果 (1996年8月22日告示・9月8日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤栄佐久 (無所属・現・57歳)	推薦	829,343
	山崎満子 (無所属・新・58歳)		131,669



▲96春季生活闘争開始県北地域集会

❖ 第41回衆議院議員選挙結果 (1996年10月8日告示・20日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤剛男 (自民党・前・59歳)		102,950
	石原健太郎 (無所属・元・59歳)		93,347
	佐藤巨晴 (社会民主党・元・60歳)	支持	38,196
	岡崎勝男 (日本共産党・新・58歳)		20,451



▲96秋季生活闘争勝利集会

福島地区連合第7回定期大会

1997年 (平成9年) 11月15日

福島県労働福祉会館

時短闘争では、本年4月1日より猶予措置が撤廃されたこととともない、特別措置対象事業所を除くすべての事業所での早期定着に向けた広報を行いました。

今年度も7組合、228名の新しい仲間を迎えることができ、結成以来のトータルでは、103組合、組合員9,940名の成果を上げることができました。

県北地域連合は、同日開催されました第8回定期大会(1997年11月15日)において、連合福島第9回定期大会(1997年10月29日開催)の、地域連合の機関会議を廃止する規約改正が行われたことを受け、事実上地域連合が廃止され連絡調整機関となりました。

❖ 福島市長選挙結果 (1997年11月2日告示・11月9日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	吉田修一 (無所属・現・70歳)	推薦	73,958
	土田誠一 (無所属・新・68歳)		12,708
	法井太閤 (無所属・新・52歳)		7,633



▲県北連合青年連絡会'97ビールまつり(8月6日)

福島地区連合第8回年次大会

1998年 (平成10年) 10月28日

福島県労働福祉会館

長期的な不況に陥り、産業・企業のリストラの動きが加速し、完全失業率、有効求人倍率はともに戦後最悪の水準まで落ち込みました。

秋から年末にかけて「景気回復・雇用創出・公正労働基準の確立」を運動の柱として中央、地方を問わず関係諸団体に対し、全組織をあげてその実現をめざし、さまざまな活動を展開しました。

民主党福島県連合会が結成されました。



▲福島地区労福協40周年記念レセプション(9月19日)



▲民主党福島県連結成大会

❖ 第18回参議院議員選挙結果 (1998年6月25日公示・7月12日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤雄平 (無所属・新・50歳)	推薦	338,671
当選	岩城光英 (自民党・新・48歳)		258,448
	佐藤静雄 (自民党・現・66歳)		245,079
	佐藤秀樹 (共産党・新・31歳)		109,843
	芳賀一太 (無所属・新・51歳)		32,817
	下藤芳久 (新社会・新・65歳)		20,820
	鈴木尚之 (青年自由・新・51歳)		20,267
	板垣富美男 (自由連・新・48歳)		12,169



▲佐藤ゆうへい参議院議員勝利

福島地区連合第9回定期大会

1999年 (平成11年) 11月11日

福島県労働福祉会館

連合福島は、結成10周年の記念すべき節目に「21世紀へ力と行動！」をスローガンに掲げました。そして来年2月の「連合福島政治センター」を設立することを定期大会で決定しました。

❖ 福島県会議員選挙 (1999年4月2日告示・4月11日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	甚野源次郎 (公明党・現・52歳)	支持	15,848
当選	加藤雅美 (社民党・現・49歳)	推薦	12,772
当選	高橋信一 (無所属・新・45歳)	推薦	12,591
落選	伴場忠彦 (民主党・現・63歳)	推薦	12,268

❖ 福島市議会議員選挙 (4月18日告示・4月25日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	粕谷悦功 (無所属・新・49歳)	推薦	3,332
当選	小林義明 (民主党・現・56歳)	推薦	3,216
当選	杉原二雄 (社民党・新・55歳)	支持	2,976
当選	高橋 勇 (社民党・新・52歳)	推薦	2,928
当選	木村六朗 (社会党・現・58歳)	支持	2,899
当選	高橋英夫 (無所属・現・48歳)	推薦	2,702
当選	遠藤 一 (社会党・現・62歳)	推薦	2,518
当選	阿部保衛 (民主党・現・58歳)	推薦	2,516
当選	佐藤保彦 (社会党・現・55歳)	支持	2,503
当選	山岸 清 (民主党・現・51歳)	推薦	2,439
当選	押部栄哉 (社会党・現・52歳)	推薦	2,309
当選	伊東忠三 (無所属・現・63歳)	推薦	2,135

福島地区連合第10回年次大会

2000年 (平成12年) 11月8日

ホテル福島グリーンパレス

連合福島は、本大会において現状を厳しく受け止め、『悩んでいないで、まずは相談！』をキャッチフレーズに個人で加盟できる「連合ふくしまユニオン」を、構成組織と地区連合の全面的な協力によって結成しました。

❖ 第42回衆議院議員選挙結果（6月13日公示・6月25日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤剛男（自民党・前・62歳）		89,353
	亀岡偉民（無所属・新・44歳）		68,874
	木幡弘道（民主党・前・53歳）	推薦	56,838
	石原健太郎（自由党・元・62歳）		32,166
	佐藤恒晴（社民党・元・64歳）		28,251
	新美正代（共産党・新・54歳）		19,927



❖ 第16回福島県知事選挙結果（8月17日告示・9月3日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	佐藤栄佐久（無所属・現・61歳）	推薦	781,437
	山口文彦（無所属・新・65歳）		126,185

福島地区連合第11回定期大会

2001年（平成13年）11月28日

福島県労働福祉会館

「労働を中心とする福祉型社会」を目標に、雇用の創出と安定、新しいワークルールづくりに向け、取り組みを進めることと、組合員のみならず、運動の重点をパートや契約労働者など非典型雇用の労働者に置き、その雇用と労働条件の改善に向けた取り組みをはじめました。

❖ 福島市長選挙結果（2001年11月11日告示・11月18日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	瀬戸孝則（無所属・新・54歳）		63,418
	佐久間博（無所属・新・56歳）	推薦	59,233

❖ 第19回参議院議員選挙結果（7月12日公示・7月29日投票）

当・落	氏名（政党名・年齢など）	支援区分	得票数
当選	太田豊秋（自民党・前・66歳）		393,230
当選	和田洋子（民主党・前・59歳）	推薦	220,704
	神田香織（無所属・新・46歳）		113,284
	三保恵一（無所属・新・52歳）		95,122
	川田昌成（自由党・新・57歳）		70,499
	新美正代（共産党・新・55歳）		59,748
	鈴木隆夫（自由連・新・60歳）		17,555
	熊谷義弘（新風・新・35歳）		3,733



▲和田ひろこ個人演説会（7月24日）

福島地区連合第12回年次大会

2002年（平成14年）11月9日

福島県労働福祉会館

雇用・失業情勢は昨年7月以降5%台となり、直近の8月調査でも5.4パーセントと統計史上最悪の水準で推移、雇用の創出と安定、新しいワークルールづくりに向けた取り組みは緊急な課題となりました。

同時に、将来の安心を確立するための安定した社会保障制度の再構築と、希望の持てる社会づくりを目指しました。

第73回福島県中央メーデーが市民参加型となり、4月27日、あづま運動総合公園で開催し、4,950名が参加しました。



福島地区連合第13回定期大会

2003年 (平成15年) 11月29日

コラッセふくしま

「より弱い立場にある人々とともに闘う」という運動の原点に立ち、「これ以上失業者を増やさない。働きたい人に職場を」を掲げて、持てる力を結集して、助け合い、分かち合うという心こそが労働運動の源泉だ。職場から、地域から「連帯」を再生することを目指しました。

❖ 福島県議会議員選挙結果 (2003年4月4日告示・4月13日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	高橋秀樹 (民主党・新・37歳)	推薦	13,560
当選	加藤雅美 (社民党・現・53歳)	推薦	12,041
当選	甚野源次郎 (公明党・現・56歳)	支持	16,539

❖ 福島市議会議員選挙結果 (2003年4月20日告示・4月27日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	高橋英夫 (無所属・現・52歳)	推薦	3,143
当選	粕谷悦功 (無所属・現・53歳)	推薦	3,444
当選	高木克久 (無所属・新・47歳)	推薦	4,676
当選	栗野啓二 (民主党・新・50歳)	推薦	3,613
当選	羽田房男 (社民党・新・44歳)	推薦	2,660
当選	木村六朗 (社民党・現・62歳)	支持	3,355
当選	杉原二雄 (社会党・現・59歳)	支持	3,119
当選	高柳 勇 (社民党・現・56歳)	支持	3,003
当選	山岸 清 (無所属・現・55歳)	支持	2,949
当選	大場秀樹 (無所属・新・33歳)	支持	2,837
落選	伊東忠三 (無所属・現・67歳)	推薦	2,100

❖ 第43回衆議院議員選挙結果 (2003年10月28日公示・11月9日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
	石原信一郎 (民主党・新・36歳)	推薦	72,076
当選	佐藤剛男 (自民党・前・66歳)		98,896
	亀岡偉民 (無所属・新・48歳)		96,954
	山田 裕 (共産党・新・48歳)		15,241



▲第2次湖北省植林ボランティア(3月13日)



▲第13回定期大会(11月29日)

福島地区連合第14回年次大会

2004年 (平成16年) 11月27日

福島県労働福祉会館

「平和、幸せ、道ひらく」を掲げた連合結成から15年。その道のりは決して平坦なものではありませんでした。

『組合が変わる、社会を変える。安心・公正な社会を求めて』をスローガンのもと労働運動の原点である職場、地域から「連帯」を再生し力強く前進することを目指しました。

❖ 第20回参議院議員選挙結果 (2004年6月24日公示・7月11日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤雄平 (民主党・現・56歳)	推薦	445,560
当選	岩城光英 (自民党・現・54歳)		406,793
	阿部裕美子 (共産党・新・57歳)		128,300

❖ 第17福島県知事選挙結果 (2004年8月19日告示・9月5日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤栄佐久 (無所属・現・65歳)	推薦	704,220
	小川英雄 (無所属・新・55歳)		124,179



▲自衛隊のイラク派兵を許さない県中央集会(1月19日)



▲自衛隊のイラク派兵を許さない県中央集会(1月19日)

福島地区連合第15回定期大会

2005年 (平成17年) 11月26日

ホテル福島グリーンパレス

格差の拡大と社会の荒廃に直面し、一握りの勝者と多数の敗者が生み出され二極化が深刻化してきました。

その中で最優先すべき課題は、中小企業労働者とパート・契約・派遣労働者などに最大限焦点を当てた取り組みであり、地域に根ざした顔の見える運動の構築でした。

❖ 第44回衆議院議員選挙結果 (2005年8月30日公示・9月11日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
	石原信市郎 (民主党・新・38歳)	推薦	109,795
当選	亀岡偉民 (自主党・新・50歳)		171,507
	山田 裕 (共産党・新・50歳)		20,412



▲第15回定期大会(11月26日)

❖ 福島市長選挙結果 (2005年11月6告示・13日投票、自主投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	瀬戸孝則 (無所属・現・58歳)		75,250
	横山俊邦 (無所属・新・57歳)		35,332
	山田 裕 (共産党・新・50歳)		6,591
	法井太閤 (無所属・新・60歳)		4,943

❖ 福島市議会議員補欠選挙結果 (2005年11月6告示・13日投票、定員2名)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	石原洋三郎 (民主党・新・32歳)	支持	46,357
当選	渡辺あゆ美 (自民党・新・33歳)		40,623

福島地区連合第16回年次大会

2006年 (平成18年) 12月2日

杉妻会館

5年余りの小泉自公政権の競争至上主義と市場万能主義による構造改革路線のもと、二極化といわれる格差の拡大と社会の荒廃に直面し、不条理に立ち向かい、社会の変革に取り組み労働運動の再生・活性化を目指し、格差のない社会、希望を託せる社会づくりをめざして力強く前進することにしました。

第77回福島県中央メーデーは、荒川公園で集会、NHK前までデモ、そして福島駅東口から国道13号までを歩行者天国にしてイベントを開催しました。

❖ 第18福島県知事選挙結果 (2006年10月26告示・11月12日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤雄平 (無所属・新・58歳)	推薦	497,171
	森 雅子 (無所属・新・42歳)		395,950
	小川英雄 (無所属・新・57歳)		38,457
	川田昌成 (無所属・新・63歳)		23,113
	高橋喜重 (無所属・新・58歳)		10,598



▲佐藤ゆうへい県知事初当選(11月12日)



▲第77回メーデー(4月29日)



▲第77回メーデー(4月29日)

福島地区連合第17回定期大会

2007年 (平成19年) 12月1日

杉妻会館

「組合が変わる、社会を変える。一つくろう格差のない社会、職場・地域から」を合言葉に、構造改革路線のもとに生じた格差社会の解消に向け、連合福島並びに福島地区連合は政策実現の取り組みや、組織率が18%台といわれるなかでの組織拡大運動の推進と、未組織労働者との連帯・連携をはかった。

出直し知事選挙での「佐藤雄平知事誕生実現」をスタートに、統一地方選挙、参議院議員補欠選挙、参議院議員通常選挙を取り組みました。

「連合福島は歴史的な政治決戦」と位置付け総力で取り組み、先の参議院議員通常選挙では民主党の勝利で第一党を勝ち取り「参議院での与野党逆転」を果たし、我々が求めている「二大政党的体制と政権交代可能な政治体制の実現」に大きな一歩を踏み出すことができました。

❖ 福島県議会議員選挙結果 (2007年3月30日公示・4月8日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	加藤雅美 (社民主党・現・57歳)	推薦	11,113
当選	高橋秀樹 (民主党・現・41歳)	推薦	10,532
当選	石原信市郎 (民主党・新・40歳)	支持	14,123
	大場秀樹 (民主党・新・37歳)	支持	8,782

❖ 福島市議会議員選挙結果 (2007年4月15日告示・4月22日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	石原洋三郎 (民主党・現・34歳)	支持	8,134
当選	山岸 清 (民主党・現・59歳)	支持	4,055
当選	高木克久 (無所属・現・51歳)	推薦	3,741
当選	木村六朗 (社民主党・現・66歳)	支持	3,364
当選	梅津政則 (無所属・新・40歳)	推薦	3,316
当選	杉原二雄 (社会党・現・63歳)	支持	3,284
当選	粕谷悦功 (無所属・現・57歳)	推薦	3,252
当選	粟野啓二 (無所属・現・54歳)	推薦	2,947
当選	羽田房男 (無所属・現・48歳)	推薦	2,582
当選	高柳 勇 (社民主党・現・60歳)	支持	2,577

❖ 参議院議員補欠選挙結果 (2007年4月5日公示・4月22日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	増子輝彦 (民主党・新・59歳)	推薦	541,236
	山口 勇 (自民主党・新・69歳)		303,782
	宮本しづえ (共産党・新・54歳)		85,994

❖ 第21回参議院議員選挙結果 (2007年7月12日公示・7月29日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	金子恵美 (民主党・新・42歳)	推薦	503,423
当選	森 雅子 (自民主党・新・42歳)		372,857
	宮本しづえ (共産党・新・55歳)		78,237
	小川右善 (社民主党・新・57歳)		54,466



▲新春交歓会 (1月23日)



▲福島市長との予算回答 (7月3日)

福島地区連合第18回年次大会

2008年

(平成20年) 11月29日

杉妻会館

誰からも信頼され頼られる組織をつくり、ゆがんだ社会の軌道修正を図るため、社会の不条理・不公正と徹底して闘うこと。ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた働き方の改革を進め、労働分配率の改善や均等待遇をはじめとする公正なワークルールを確立することに取り組みました。



▲チラシ配布行動(1月29日)



▲H20年度市の予算編成に対する要請書の提出(2月13日)



▲白鳥の餌2.1トン寄付(新聞)(1月9日)

福島地区連合第19回定期大会

2009年

(平成21年) 12月5日

ホテル福島グリーンパレス

職場や地域で「顔の見える」連合運動を進めていく。そして、政権交代により樹立された民主党を中心とする新政権の進める諸政策に期待すると同時に、県内においては、佐藤雄平県政与党である県民連合との連携を強化し、地域から信頼される運動を通じて県民本位の政策実現に向けた取り組みを進めました。

◆ 第45回衆議院議員選挙結果 (2009年8月18日公示・8月30日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	石原洋三郎(民主党・新・36歳)	推薦	156,060
	亀岡偉民(自民党・前・53歳)		136,526
	山田 裕(共産党・新・54歳)		15,879
	大橋一之(幸福実・新・40歳)		3,492

◆ 福島市長選挙結果 (2009年11月1告示・8日投票)

当・落	氏名(政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	瀬戸孝則(無所属・現・62歳)	推薦	72,061
	山田 裕(共産党・新・54歳)		16,456



▲石原衆議院議員初当選(8月30日)

❖ 福島市議会議員補欠選挙結果 (2009年11月1告示・8日投票、定員1名)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当	煙山 亨 (民主党・新・54歳)	支持	31,728
当選	佐藤雅裕 (無所属・新・43歳)		40,618
当選	野口徹郎 (共産党・新・33歳)		11,328



▲最低賃金引き上げを求める街頭署名行動 (6月26日)

福島地区連合第20回年次大会

2010年 (平成22年) 12月4日

ホテル福島グリーンパレス

底割れしつつある日本の経済社会構造と地域社会を建て直し、「労働を中心とした福祉型社会」を構築するための確かで大きな歩みを、力強く踏み出さなければならない。

今こそ、生活を立て直し、安心して豊かさが実感できる社会構築のため、労働組合が不可欠な存在であることを具体的運動によつての活動が求められています。

「すべての働く者の連帯で、希望と安心の社会を築こう！」

❖ 第22回参議院議員選挙結果 (2010年6月24日公示・7月11日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	増子輝彦 (民主党・現・62歳)	推薦	340,947
当選	岩城光英 (自民党・現・60歳)		338,265
	岡部光規 (民主党・新・41歳)		155,262
	菅本和雅 (みんな・新・42歳)		93,758
	岩淵 友 (共産党・新・33歳)		64,209



▲瀬戸市長との定義協議会 (4月21日)

❖ 第19福島県知事選挙結果 (2010年10月14告示・10月31日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	佐藤雄平 (無所属・現・62歳)	推薦	609,931
	佐藤克朗 (共産党・新・55歳)		79,594



▲福島市新庁舎見学会 (7月14日)



▲第20回年次大会 (12月4日)

福島地区連合第21回定期大会

2011年 (平成23年) 12月3日

ホテル福島グリーンパレス

底割れしつつある日本の経済社会構造と地域社会を建て直し、「労働を中心とした福祉型社会」を構築するための確かで大きな歩みを、力強く踏み出さなければならない。

今こそ、生活を立て直し、安心で豊かさが実感できる社会構築のため、労働組合が不可欠な存在であることを具体的運動によっての活動が求められています。

「すべての働く者の連帯で、希望と安心の社会を築こう！」

❖ 福島市議会議員選挙結果 (2011年7月24日告示・31日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	粕谷悦功 (無所属・現・61歳)	推薦	2,017
当選	高木克久 (無所属・現・56歳)	推薦	2,965
当選	栗野啓二 (無所属・現・59歳)	推薦	1,824
当選	羽田房男 (無所属・現・52歳)	推薦	2,074
当選	梅津政則 (無所属・現・44歳)	推薦	2,307
当選	山岸 清 (民主党・現・63歳)	支持	2,276
当選	杉原二雄 (社会党・現・67歳)	支持	2,056
当選	梅津一匡 (社会党・新・35歳)	支持	2,258
	鈴木康広 (民主党・新・29歳)	支持	1,014



▲2011春季生活闘争県中央総決起集会 (3月5日)

❖ 福島県議会議員選挙結果 (2011年11月10日告示・11月20日投票)

当・落	氏名 (政党名・年齢など)	支援区分	得票数
当選	紺野長人 (社民党・新・56歳)	推薦	9,801
当選	石原信市郎 (民主党・現・44歳)	支持	8,258
	高橋秀樹 (民主党・現・46歳)	推薦	6,743
	大場秀樹 (民主党・新・42歳)	推薦	6,331



▲第21回定期大会役員挨拶 (12月3日)



▲20周年記念レセプション歴代議長、議長代理、事務局長の皆様 (12月3日)

歴代議長・歴代役員

福島地区連合

初代議長



渡辺 彰

1992年3月～1997年11月

第2代議長



小山勝也

1997年11月～1998年10月

第3代議長



山本泰博

1998年10月～2000年11月

第4代議長



服部喜博

2000年11月～2003年11月

第5代議長



須藤政浩

2003年11月～2009年12月

第6代議長



紺野孝幸

2009年12月～現在

県北地域連合

初代議長



伊藤鉄次

1991年2月～(1989.11 ?)
1995年11月

第2代議長



小山勝也

1995年11月～1997年11月

福島地区連合歴代役員

第1回 1992. 3.13(結成大会)			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
副議長	大山 信男	電機労連協	北芝電機労組
"	阿部 弘	ゼンキン連合	協三工業労組
"	西條 孝夫	JR総連	JR東労組
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	三浦 一男	私鉄総連	福島交通福島支部
"	斎藤 浩信	電力総連	東北計器労組
幹事	中島 真一	交通労連	辰巳屋支部
"	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
"	石川直二郎	全自交	吾妻分会
"	藤岡 郁夫	全通	全通福島
"	穂積 央男	運輸労連	全日通福島分会
"	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
"	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
"	郡司 守進	全農林	全農林福島農政分会
"	石川 忠	基金労組	基金労組福島支部
"	光野 喜洋	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	渡辺 勢治	自動車総連	福島製鋼労組
"	高橋 健二	金属機械	東開工業支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
"	須田 勝義	自動車総連	福島いすゞ労組

第2回 1993. 3.12			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
副議長	尾形 幹夫	電機労連協	松下電器産業労組
"	渡辺 良勝	ゼンキン連合	
"	栢窪 長男	JR総連	JR総連福島県協議会
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	渡辺 登	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	斎藤 浩信	電力総連	東北計器労組
幹事	中島 真一	交通労連	辰巳屋支部
"	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
"	石川直二郎	全自交	吾妻分会
"	藤岡 郁夫	全通	全通福島
"	穂積 央男	運輸労連	全日通福島分会
"	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
"	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
"	郡司 守進	全農林	全農林福島農政分会
"	石川 忠	基金労組	基金労組福島支部
"	鈴木 信一	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	小森 善晶	自動車総連	
"	高橋 健二	金属機械	東開工業支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
"	菅野 正人	自動車総連	
オブ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	

第3回 1993.12. 3			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
副議長	尾形 幹夫	電機労連協	松下電器産業労組
"	渡辺 盛幸	自動車総連	日産サニー福島販売労組
"	高橋 直	ゼンキン連合	北東衡機労組
"	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
"	栢窪 長男	JR総連	JR総連福島県協議会
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	斎藤 浩信	電力総連	東北計器労組
"	渡辺 登	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	有路 卓司	全通	福島地方支部
幹事	半沢 勝行	金属機械	東海工業支部
"	佐久間 敦	一般同盟	福島ワコール縫製労組
"	佐久間 正男	交通労連	全福島ハイ・タク労組庭坂支部
"	加藤 規明	運輸労連	全日通福島分会
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
"	石川直二郎	全自交労連	福島支部
"	郡司 守進	国交総連	福島農政分会
"	山田 勝則	ゴム労連	福島ゴム労組
"	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
"	大槻 富治	森林労連	全林野福島営林署分会
"	鈴木 信一	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	朝倉 靖夫	政労連	支払基金労組
"	長山 均	JR連合	福島県支部福島駅連合分会
"	鈴木 浩三	建設連合	建設省職員組合
オブ加盟幹事	佐藤 浩二	労福労連	労働金庫本店支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
"	渡部 洋則	日放労	福島分会

第4回 1994.12. 8			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
副議長	笹山 宏樹	電機労連協	東北沖電気労組
"	萩生 孝行	自動車総連	福島日産モーター労組
"	高橋 直	ゼンキン連合	北東衡機労組
"	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
"	五十嵐 秀夫	JR総連	JR総連東労組仙台地本
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局次長	村上 正弘	電力総連	ユアテックユニオン福島分会
"	佐藤 正英	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	遠藤 親玉	全通	福島地方支部
幹事	半沢 勝行	金属機械	東海工業支部
"	佐久間 敦	一般同盟	福島ワコール縫製労組
"	佐久間 正男	交通労連	全福島ハイ・タク労組庭坂支部
"	加藤 規明	運輸労連	全日通福島分会
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
"	石川直二郎	全自交労連	福島支部
"	郡司 守進	国交総連	福島農政分会
"	菅野 昭一	ゴム労連	福島ゴム労組
"	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
"	井上 和應	森林労連	全林野福島営林署分会
"	鈴木 信一	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	朝倉 靖夫	政労連	支払基金労組
"	高野 三郎	JR連合	福島県支部福島駅連合分会
"	鈴木 浩三	建設連合	建設省職員組合
オブ加盟幹事	佐藤 浩二	労福労連	労働金庫本店支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
"	小島 行弘	NHK労連	福島・いわき分会

第5回 1995.11.29			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
議長代理	笹山 宏樹	電機労連協	東北沖電気労組
副議長	佐藤 真一	ゼンキン連合	NOKグループ労組
〃	五十嵐 秀夫	JR総連	JR東労組福島支部
〃	斎藤 隆一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島分会
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局長次	佐藤 正英	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	村上 正弘	電力総連	ユアテックユニオン福島分会
〃	遠藤 親玉	全通	福島地方支部
幹事	佐久間 正男	交通労連	全福島ハイ・タク労組庭坂支部
〃	斎藤 俊市	金属機械	東海工業支部
〃	大槻 政好	全自交労連	福島支部
〃	佐久間 敦	一般同盟	福島ワコール縫製労組
〃	加藤 規明	運輸労連	全日通福島分会
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	郡司 守進	国交総連	全農林福島農政分会
〃	小椋 錠司	政労連	基金労組福島支部
〃	手代木 功成	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅野 昭一	ゴム労連	福島ゴム労組
〃	今野 幸廣	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	高野 三郎	JR連合	鉄産福島地区分連協
〃	鈴木 浩三	建設連合	建設省職員組合
オブ加盟幹事	遠藤 靖弘	労福労連	労働金庫労組本店支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
〃	大塚 秋人	NHK労連	福島・いわき分会

第6回 1996.12.11			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	渡辺 彰	自治労	県職労
議長代理	笹山 宏樹	電機労連協	東北沖電気労組
副議長	佐藤 真一	ゼンキン連合	NOKグループ労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	斎藤 隆一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	伏見 吉弘	情報労連	全電通福島山下分会
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡労組
事務局長次	三浦 一男	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	渡辺 吉喜	電力総連	
〃	遠藤 親玉	全通	福島地方支部
幹事	佐久間 正男	交通労連	全福島ハイ・タク労組
〃	斎藤 俊市	金属機械	東海工業支部
〃	大槻 政好	全自交労連	福島支部
〃	渡辺 義明	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	加藤 規明	運輸労連	全日通福島地協
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	稲川 浩美	国交総連	全農林福島農政分会
〃	小椋 錠司	政労連	基金労組福島支部
〃	手代木 功成	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅野 昭一	ゴム労連	福島ゴム労組
〃	大倉 冬樹	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	高野 三郎	JR連合	鉄産福島地区分連協
〃	鈴木 浩三	建設連合	建設省職員組合
オブ加盟幹事	渡辺 一也	労福労連	労働金庫労組本店支部
会計監査	渡辺 直行	全郵政	福島地方支部
〃	富山 勲夫	NHK労連	福島・いわき分会

第7回 1997.11.15			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
議長代理	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	高木 克尚	自治労	福島市役所職員労組
〃	斎藤 隆一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	吉田 三知也	ゼンキン連合	永沢工機労組
〃	紺野 清彦	情報労連	全電通福島花園分会
〃	鈴木 長治	私鉄総連	私鉄福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	鈴木 和美	全郵政	全郵政福島地方支部
事務局長	菅野 敏夫	連合福島	
事務局長次	村井 敏美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	全通	全通福島地方支部
〃	菅野 貞夫	自治労	県職労東北ブロック協議会
〃	菅野 喜博	電機連合	福島日本電気労組
幹事	清野 義孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	磨 吉則	金属機械	東開工業支部
〃	渡辺 義明	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	菅野 満	交通労連	全福島ハイタク労組福島貸切
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティー労組ビブレ支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	加藤 規明	運輸労連	全日通福島地協
〃	斎藤 敏夫	食品連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	稲川 浩美	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	今野 幸廣	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	漆間 郁夫	NHK労連	福島・いわき分会
〃		建設連合	
〃	多田 吉男	政労連	基金労組福島支部
〃	阿部 繁則	労金労組	労金西支店支部
〃	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職員労組
会計監査	手代木 功成	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	山田 友弘	JR連合	ジェイアールグリーンユニオン支部
職員	渡辺 佐久子		

第8回 1998.10.28			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	高木 克尚	自治労	福島市役所職員労組
〃	大槻 利一	自動車総連	福島製鋼労組
〃	吉田 三知也	ゼンキン連合	永沢工機労組
〃	紺野 清彦	情報労連	NTT労組TE福島分会
〃	鈴木 長治	私鉄総連	私鉄福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	伊藤 松男	全郵政	全郵政福島地方支部
〃	服部 喜博	電機連合	福島日本電気労組
事務局長	菅野 敏夫	連合福島	
事務局長次	村井 敏美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	全通	全通福島地方支部
〃	菅野 貞夫	自治労	県職労東北ブロック協議会
〃	菅野 俊之	電機連合	北芝電機労組
幹事	清野 義孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	磨 吉則	金属機械	東開工業支部
〃	青田 裕之	CSG連合	福島ワコール縫製労組
〃	菅野 満	交通労連	全福島ハイタク労組福島貸切
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティー労組ビブレ支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	加藤 規明	運輸労連	全日通福島地協
〃	斎藤 敏夫	食品連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	三浦 昌典	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	今野 幸廣	森林労連	全林野福島営林署分会
〃	小原 良之	NHK労連	福島・いわき分会
〃		建設連合	
〃	多田 吉男	政労連	基金労組福島支部
〃	大沼 達也	労金労組	労金西支店支部
〃	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職員労組
会計監査	丹野 眞宏	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	安田 裕之	JR連合	ジェイアールグリーンユニオン支部
職員	湯浅 貞子		

※県北地域連合は連絡調整機関へ(1997.11.15)

第9回 1999.11.11			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡労組福島支部
議長代理	高木 克尚	自治労	福島市役所職員労組
副議長	大槻 利一	自動車総連	福島製鋼労組
"	服部 喜博	電機連合	福島日本電気労組
"	高橋 直	JAM福島	北東衡機労組
"	寺島 秀樹	情報労連	NTT労組花園直轄分会
"	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
"	鈴木 和美	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	渡部 泰弘	自治労	県職労県北方部協議会
"	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
"	枝浪 功次	電力総連	東北電力労組福島支店支部
"	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	清野 義孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
"	青田 裕之	CSG連合	福島ワコール縫製労組
"	菅野 満	交通労連	全福島ハイタク労組
"	阿部 研也	商業労連	ダックシティー労組ピレ支部
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
"	郡司 修	運輸労連	全日通福島地協
"	斎藤 敏夫	食品連合	全森永労組福島支部
"	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
"	三浦 昌典	国公総連	全農林東北地方本部福島南分会
"	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム労組
"	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
"	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
"	嶋田 樹哉	NHK労連	福島・いわき分会
"	斎藤 博実	建設連合	建設省職員組合福島支部
"	佐久間 秀樹	政労連	基金労組福島支部
"	大沼 達也	労金労組	労金西支店支部
"	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職労
会計監査	丹野 眞宏	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	長沼 清治	JR連合	ジェイアールグリーンユニオン支部
職員	湯浅 貞子		

第10回 2000.11.8			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	服部 喜博	電機連合	NECワイヤレスネットワークス労組
議長代理	高木 克尚	自治労	福島市職労
副議長	三浦 伸之	自動車総連	福島製鋼労組
"	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
"	高橋 直	JAM	北東衡機労組
"	寺島 秀樹	情報労連	NTT労組花園直轄分会
"	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
"	佐藤 洋一	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	渡部 泰弘	自治労	県職労県北方部協議会
"	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
"	枝浪 功次	電力総連	東北電力労組福島支店支部
"	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	清野 義孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
"	青田 裕之	CSG連合	福島ワコール縫製労組
"	大内 勝市	交通労連	全福島ハイヤータクシー労組
"	阿部 研也	商業労連	ダックシティー労組ピレ支部
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
"	郡司 修	運輸労連	全日通福島地協
"	斎藤 敏夫	食品連合	全森永労組福島支部
"	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
"	菅野 光一	国公総連	全農林東北地方本部福島南分会
"	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム労組
"	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
"	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
"	上野 速人	NHK労連	福島・いわき分会
"	渡辺 靖	建設連合	建設省職員組合福島支部
"	佐久間 秀樹	政労連	基金労組福島支部
"	菅野 常広	労金労組	労金労組本店支部
"	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職労
会計監査	丹野 眞宏	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	長沼 清治	JR連合	JRグリーンユニオン支部
職員	湯浅 貞子		

第11回 2001.11.28			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	服部 喜博	電機連合	NECワイヤレスネットワークス労組
副議長		自治労	福島市職労
"	三浦 伸之	自動車総連	福島製鋼労組
"	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
"	高橋 直	JAM	北東衡機労組
"	高橋 秀樹	情報労連	NTT労組花園直轄分会
"	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
"	佐藤 洋一	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	渡部 泰弘	自治労	県職労県北方部協議会
"	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
"	左雨 斎	電力総連	東北電力労組福島支店支部
"	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	清野 義孝	ゼンセン同盟	日東加工労組
"	青田 裕之	CSG連合	福島ワコール縫製労組
"	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
"	阿部 研也	サービス・流通連合	ダックシティー労組ピレ支部
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
"	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
"	伊藤 薫	食品連合	全森永労組福島支部
"	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
"	菅野 光一	国公総連	全農林東北地方本部福島南分会
"	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム産業労組
"	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
"	松尾 秀行	森林労連	福島森林管理署分会
"	戸田 順	NHK労連	福島・いわき分会
"	渡辺 靖	建設連合	建設省職員組合福島支部
"	菊池 央樹	政労連	基金労組福島支部
"	菅野 常広	労金労組	労金労組本店支部
"	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職労
会計監査	横山 利幸	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	柝窪 貞男	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
職員	湯浅 貞子		

第12回 2002.11.9			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	服部 喜博	電機連合	NECワイヤレスネットワークス労組
副議長	高木 克尚	自治労	福島市職労
"	木村 英治	自動車総連	福島製鋼労組
"	栗野 啓二	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
"	高橋 直	JAM	北東衡機労組
"	高橋 秀樹	情報労連	NTT労組福島分会花園部
"	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
"	渡部 宏之	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	渡部 泰弘	自治労	県職労県北方部協議会
"	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
"	左雨 斎	電力総連	東北電力労組福島支店支部
"	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	清野 義孝	UIゼンセン同盟	日東加工労組
"	青田 裕之	UIゼンセン同盟	福島ワコール縫製労組
"	大内 勝市	交通労連	全福島ハイヤータクシー労組
"	阿部 研也	サービス・流通連合	さくら野百貨店労組福島支部
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
"	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
"	伊藤 薫	食品連合	全森永労組福島支部
"	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
"	菅野 光一	国公総連	全農林東北地方本部福島南分会
"	菅野 昭一	ゴム連合	福島ゴム労組
"	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
"	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
"	田村 康	NHK労連	福島・いわき分会
"	渡辺 靖	建設連合	建設省職員組合福島支部
"	菊池 央樹	政労連	基金労組福島支部
"	菅野 常広	全労金	労金労組福島県支部福島分会
"	斎藤 仁一	青年連絡会	川俣町職労
会計監査	横山 利幸	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
職員	湯浅 貞子		

第13回 2003.11.29			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	須藤 政浩	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	渡部 宏之	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局長次	菅野 貞夫	自治労	県職労県北方部協議会
〃	渡部 公幸	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
幹事	菅野 一喜	情報労連	NTT労組福島分会花園部会
〃	荒沢 重雄	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	佐藤 浩明	サービス・流通連合	さくら野百貨店労組福島支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	吉田 鉄弘	フード連合	全森永労組福島支部
〃	樋口 徳彦	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅野 光一	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	関根 新	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
〃	田村 康	NHK労連	福島県域分会
〃	菊池 敏光	政労連	基金労組福島支部
〃	菅野 常広	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	武藤 吉信	県北青年連絡会	自治労飯野町職労
会計監査	横山 利幸	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
職員	湯浅 貞子		

第14回 2004.11.27			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	須藤 政浩	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	高橋 正之	電機連合	東北ムネカタ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	渡部 宏之	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局長次	菅野 貞夫	自治労	県職労県北方部協議会
〃	渡部 公幸	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	JPU	福島地方支部
幹事	菅野 一喜	情報労連	NTT労組福島分会花園部会
〃	篠木 春男	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	佐藤 浩明	サービス・流通連合	さくら野百貨店労組福島支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	福地 一徳	フード連合	全森永労組福島支部
〃	樋口 徳彦	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅野 光一	国公総連	全農林東北地本福島南分会
〃	菅野 敏信	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
〃	石崎 達也	NHK労連	福島県域分会
〃	佐藤 達也	政労連	基金労組福島支部
〃	高橋 常夫	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	武藤 吉信	男女平等推進委員会	飯野町職労
会計監査	横山 利幸	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
職員	湯浅 貞子		

第15回 2005.11.26			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	須藤 政浩	情報労連	NTT労組福島分会
議長代理	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	高橋 正之	電機連合	ムネカタ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	稲垣 修治	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局長次	菅野 貞夫	自治労	県職労県北方部協議会
〃	梅津 政則	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	JPU	福島地方支部
幹事	小荒井 時雄	情報労連	NTT労組福島分会大町部会
〃	篠木 春男	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	福地 一徳	フード連合	全森永労組福島支部
〃	阿部 眞	全自交労連	全自交福島支部
〃	菅野 光一	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	菅野 敏信	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
〃	坂田 修一	NHK労連	福島県域分会
〃	佐藤 達也	政労連	基金労組福島支部
〃	高橋 常夫	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	二瓶 修爾	ヘルスクエア労協	福島中央市民医療生協労組
会計監査	伊藤 雅憲	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	佐藤 昭久	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第16回 2006.12. 2			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	須藤 政浩	情報労連	NTT労組福島分会
議長代理	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	高橋 正之	電機連合	ムネカタ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	小野 靖	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局長次	藤田 一浩	自治労	県職労県北方部協議会
〃	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	JPU	福島地方支部
幹事	小荒井 時雄	情報労連	NTT労組福島分会大町部会
〃	篠木 春男	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	福地 一徳	フード連合	全森永労組福島支部
〃	渡辺 進	全自交労連	全自交福島支部
〃	大内 良勝	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	松尾 秀行	森林労連	全林野労組福島森林管理署分会
〃	坂田 修一	NHK労連	福島県域分会
〃	佐藤 達也	政労連	基金労組福島支部
〃	高野 慶一	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	二瓶 修爾	ヘルスクエア労協	福島中央市民医療生協労組
会計監査	佐藤 昭久	労済労連	福島銀行従業員組合
〃	渡辺 豊	全銀連合	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第17回 2007.12. 1			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	須藤 政浩	情報労連	NTT労組東北総支部
議長代理	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	高橋 正之	電機連合	ムネカタ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	小野 靖	全郵政	福島地方支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	丹野 徳男	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	JPU	福島県北支部
幹事	小荒井 時雄	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
〃	篠木 春男	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	高橋 賢	フード連合	全森永労組福島支部
〃	渡辺 進	全自交労連	全自交福島支部
〃	大内 良勝	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	塚原 康博	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	梅田 啓稔	NHK労連	福島県域分会
〃	阿曾 佳一	政労連	基金労組福島支部
〃	下斗米 広実	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	宮口 正稔	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
会計監査	渡辺 豊	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	市瀬 務	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第18回 2008.11.29			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	須藤 政浩	情報労連	NTT労組東北総支部
議長代理	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	菊田 浩和	電機連合	沖データシステムズ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	三ノ輪 好昭	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	丹野 徳男	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
幹事	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
〃	佐藤 芳一	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター分会
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	高橋 賢	フード連合	全森永労組福島支部
〃	渡辺 進	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	塚原 康博	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	梅田 啓稔	NHK労連	福島県域分会
〃	菊池 敏光	政労連	基金労組福島支部
〃	下斗米 広実	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	宮口 正稔	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
会計監査	渡辺 豊	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	市瀬 務	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第19回 2009.12. 5			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
議長代理	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
副議長	今野 泰	自治労	福島市職労
〃	菊田 浩和	電機連合	沖データシステムズ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	井場 利明	JAM	協三工業労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	斎藤 真一	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
〃	紺野 淳	私鉄総連	福島交通労組福島支部
幹事	宮部 和昌	UIゼンセン同盟	日東加工労組
〃	佐藤 芳一	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	國井 大輔	フード連合	全森永労組福島支部
〃	渡辺 進	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	今福 三郎	全水道	福島水道労組
〃	塚原 康博	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	三井 光博	JSD	全中合労組
〃	齋藤 洋	政労連	基金労組福島支部
〃	菅野 庄一	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	宮口 正稔	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
〃		青年女性連絡会	
会計監査	古内 秀一	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	片平 敦	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第20回 2010.12. 4			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
議長代理	大槻 光政	電力総連	東北電力労組福島支店支部
副議長	卯松 秀紀	自治労	福島市職労
〃	菊田 浩和	電機連合	沖データシステムズ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	斎藤 春夫	JAM	東開工業労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会LMC部会
事務局長	林 彪	連合福島	
事務局次長	斎藤 真一	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
〃	紺野 淳	私鉄総連	福島交通労組福島支部
幹事	宮部 和昌	ゼンセン同盟	日東加工労組
〃	佐藤 芳一	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	菅野 善之	JR連合	ジェイアール東日本労組福島県支部
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	國井 大輔	フード連合	全森永労組福島支部
〃	大槻 政好	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	三浦 俊紀	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	三井 光博	JSD	全中合労組
〃	齋藤 洋	政労連	基金労組福島支部
〃	植村 正和	全労金	労金労組福島県支部福島分会
〃	佐藤 仁	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
〃	雉子 波亨	青年女性連絡会	福島県北支部
会計監査	古内 秀一	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	佐藤 敏幸	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

第21回 2011.12.3			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	紺野 孝幸	UIゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
議長代理	邨松 秀紀	自治労	福島市職労
副議長	井上 正	電機連合	ムネカタ労組
〃	菅藤 利和	自動車総連	福島製鋼労組
〃	半澤 善伸	JAM	福島製作所労組
〃	安田 和広	JR総連	JR東労組福島支部
〃	大和 修	情報労連	NTT労組福島分会IMC部会
事務局長	紺野 淳	私鉄総連・専従	福島交通労組福島支部
事務局次長	斎藤 真一	自治労	県職連合県北方部協議会
〃	菅野 栄次郎	JP労組	福島県北支部
〃	伊豫田 敬	電力総連	東北電力労組福島支店支部
幹事	宮部 和昌	UIゼンセン同盟	日東加工労組
〃	村上 伸一郎	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	佐藤 芳一	交通労連	福島貸切辰巳屋労組
〃	関根 隆文	JR連合	シェアール東日本労組福島県支部
〃	福原 将弘	運輸労連	全日通福島地協
〃	國井 大輔	フード連合	全森永労組福島支部
〃	中里 正志	全自交労連	全自交福島支部
〃	佐藤 啓二	国公総連	全農林東北地本福島分会
〃	渡辺 浩	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	瓜生 忠夫	全水道	福島水道労組
〃	三浦 俊紀	森林労連	林野労組福島森林管理署分会
〃	阿部 一洋	JSD	全中合労組
〃	佐藤 広治	政労連	基金労組福島支部
〃	植村 正和	全労金	東北労金労組福島分会
〃	佐藤 仁	ヘルスケア労協	福島中央市民医療生協労組
〃	渡邊 直樹	青年女性連絡会	JP労組県北支部
会計監査	古内 秀一	全銀連合	福島銀行従業員組合
〃	丹野 寿夫	労済労連	全労済労組福島支部
職員	湯浅 貞子		

県北地域連合歴代役員

1989.11.28(結成大会)			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
副議長	西沢 安弘	自動車総連	福島いすゞ自動車労組
"	長谷 英昭	電機労連	東北沖電気労組
"	斎藤長四郎	全国金属機械	東海工業労組
事務局長	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
事務局次長	高橋 義国	電力総連	東北電力労組福島支店分会
"	田中 貞男	全金同盟	トキコ福島労組
"	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
幹事	佐藤 文夫	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
"	栃窪 長男	鉄道労連	東日本旅客鉄道労組福島支部
"	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
"	石川直二郎	全自交労連	福島支部
"	折笠 利浩	たばこ産業共闘	北関東地本福島分会
"	佐藤 清巳	日放労	東北支部福島分会
会計監査	熊谷 哲	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	丹治 茂昭	基金労組	社会保険診療報酬支払基金労組

1991. 2.23(統一大会)			
※[県北地域連合]と官公労組による統一大会(民間先行の「県北地域連合」を発展的に解散し、官民統一の「県北地域連合」結成に結びつける大会) ※第1回地域委員会確認(1991年12月10日)			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	羽田 則男	自治労	福島市職労
副議長	高橋 達雄	全郵政	全郵政福島地方支部
"	大山 信男	電機連合	北芝電機労組
"	鹿間 清二	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	栗野 啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
事務局長	(代)栗野啓二	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
事務局次長	高橋 義国	電力総連	東北電力労組福島支店分会
"	紺野 泰宏	全通	全通信労組福島地方支部
"	小松 実	自動車総連	東北三菱部品労組
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
"	蓬田 義一	全金連合	日ビス労組
"	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
"	渡辺 和則	全農林	福島南分会
"	山口 文彦	全林野	福島営林署分会
"		政労協	
"	丸川 淳一	建職組	建設省職員組合東北地本福島支部
"	佐藤 文夫	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
"	栃窪 長男	鉄道労連	JR東労組仙台地本福島支部
"	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
"	石川直二郎	全自交労連	全自交福島支部
"		食品連合	
"	高橋 健二	全国機械金属	東開工業支部
"	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
"		ゴム連合	
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労働金庫労働組合本部支部
会計監査	金子 章	全銀連合	福島銀行従業員組合
"	熊田 好夫	基金労組	基金労組福島支部

第2回 1992. 2.28			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	羽田 則男	自治労	福島市職労
副議長	高橋 達雄	全郵政	福島地方支部
"	大山 信男	電機連合	北芝電機労組
"	鹿間 清二	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
"	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
"	長谷川由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
"	根本 弘行	二本松・安達地区連合議長	全電通二本松分会
事務局長	菅野 敏夫	全自交労連	専従
事務局次長	佐藤 久雄	電力総連	東北電力労組福島支店分会
"	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
"	小松 実	自動車総連	東北三菱部品労組
"	栗野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
"	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
"	阿部 富雄	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
"	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ビス労組
"	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
"	渡辺 和則	全農林	東北地本福島分会
"	山口 文彦	全林野	福島営林署分会
"	鈴木 将晃	政労協	雇用労組福島支部
"	丸川 淳一	建職組	福島支部
"	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
"	栃窪 長男	JR総連	JR東労組福島支部
"	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
"	石川直二郎	全自交労連	福島支部
"	高橋 紀夫	全化同盟	日進堂印刷労組
"	高橋 健二	金属機械	東開工業支部
"	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労働金庫本店支部
会計監査	種田 利久	全銀連合	福島地方協議会
"	熊田 好夫	基金労組	基金労組福島支部

第3回 1993. 2.23			
1993年1月現在 1993年8月11日第3回地域委員会役員補充			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	羽田 則男	自治労	福島市職労
副議長	高橋 達雄	全郵政	福島地方支部
"	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
"	鹿間 清二	私鉄総連	福島交通労組福島支部
"	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
"	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
"	長谷川由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
"	根本 弘行	二本松・安達地区連合議長	全電通二本松分会
事務局長	菅野 敏夫	全自交労連	専従
事務局次長	佐藤 久雄	電力総連	東北電力労組福島支店分会
"	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
"	小松 実	自動車総連	東北三菱部品労組
"	栗野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
"	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
"	鈴木 宗栄	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
"	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ビス労組
"	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
"	山崎 重光	全農林	東北地本福島分会
"	山口 文彦	全林野	福島営林署分会
"	早坂 邦男	政労協	雇用労組福島支部
"	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
"	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
"	栃窪 長男	JR総連	JR東労組福島支部
"	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
"	石川直二郎	全自交労連	福島支部
"	高橋 紀夫	全化同盟	日進堂印刷労組
"	高橋 健二	金属機械	東開工業支部
"	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
"	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労働金庫本店支部
幹事	加藤 孝夫	青年連絡会議長	富士通アイソテック労組
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
"	石川 忠	政労連	基金労組福島支部
職員	熊沢 キヨ		

第4回 1993.11.16			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
副議長	長沢 孝	自治労	梁川町職労
〃	高橋 達雄	全郵政	福島地方支部
〃	鹿間 清二	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	根本 弘行	二本松・安達地区連合議長	全電通二本松分会
事務局次長	菅野 敏夫	全自交労連	専従
事務局次長	佐藤 久雄	電力総連	東北電力労組福島支店分会
〃	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
〃	小松 実	自動車総連	三菱自動車テクノメタル労組
〃	粟野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	鈴木 宗栄	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ労組二本松分会
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ピス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	山崎 重光	全農林	東北地本福島分会
〃	山口 文彦	全林野	福島営林署分会
〃	早坂 邦男	政労連	雇用労組福島支部
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	栃窪 長男	JR総連	JR東労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	石川 直二郎	全自交労連	福島支部
〃	高橋 紀夫	全化同盟	日進堂印刷労組
〃	岡崎 明	金属機械	伊達製鋼支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティ労組福島支部
〃	菅野 敏信	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	加藤 孝夫	青年連絡会議長	富士通アイソテック労組
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労金労組本店支部
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	高野 三郎	JR連合	JR連合福島地区分連協
職員	熊沢 キヨ		

第5回 1994.11.10			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	伊藤 鉄次	情報労連	全電通福島分会
議長代理	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
副議長	長沢 孝	自治労	梁川町職労
〃	高橋 達雄	全郵政	福島地方支部
〃	渡辺 登	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
〃	根本 弘行	情報労連	全電通福島分会
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	岡部 好典	二本松・安達地区連合議長	全通安達地方支部
事務局次長	菅野 敏夫	全自交労連	専従
事務局次長	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
〃	村井 敏美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	斎藤 武尾	自動車総連	
〃	粟野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	渡辺 茂典	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ労組二本松分会
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ピス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	真鍋 政之	国交総連・全農林	東北地本福島分会
〃	大倉 冬樹	森林労連	福島営林署分会
〃	早坂 邦男	政労連	雇用労組福島支部
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	加藤 和一	JR総連	JR東労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	石川 直二郎	全自交労連	福島支部
〃	高橋 紀夫	全化同盟	日進堂印刷労組
〃	岡崎 明	金属機械	伊達製鋼支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティ労組福島支部
〃	山田 勝則	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	佐藤 幸夫	青年連絡会議長	自治労安達町職労
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労金労組本店支部
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	高野 三郎	JR連合	JR連合福島地区分連協
職員	吾妻 美幸		

第6回 1995.11.10			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
議長代理	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	長沢 孝	自治労	梁川町職労
〃	鈴木 和美	全郵政	福島地方支部
〃	渡辺 登	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	根本 弘行	情報労連	全電通福島分会
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	岡部 好典	二本松・安達地区連合議長	全通安達地方支部
事務局次長	菅野 敏夫	連合福島	専従
事務局次長	紺野 泰宏	全通	福島地方支部
〃	村井 敏美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	斎藤 武尾	自動車総連	
〃	粟野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	深沢 文雄	伊達地区連合事務局長	トキコ福島
〃	渡辺 茂典	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ労組二本松分会
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ピス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	真鍋 政之	国交総連・全農林	東北地本福島分会
〃	大倉 冬樹	森林労連	福島営林署分会
〃	早坂 邦男	政労連	雇用労組福島支部
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	大槻 富保	鉄鋼労連	日重化学工業労組伊達支部
〃	加藤 和一	JR総連	JR東労組福島支部
〃	後藤 健伍	一般同盟	東北製作所労組
〃	大槻 政好	全自交労連	福島支部
〃	高橋 紀夫	全化連合	日進堂印刷労組
〃	岡崎 明	金属機械	伊達製鋼支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティ労組福島支部
〃	山田 勝則	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	尾形 正義	食品連合	
〃	斎藤 仁一	青年連絡会議長	自治労川俣町職労
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労金労組本店支部
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	高野 三郎	JR連合	JR連合福島地区分連協
職員	渡辺 佐久子		

第7回 1996.11. 8			
役職名	氏名	構成組織名	加盟組織名
議長	小山 勝也	電機連合	北芝電機労組
議長代理	山本 泰博	ゼンセン同盟	日東紡績労組福島支部
副議長	佐藤 孝	自治労	国見町職労
〃	鈴木 和美	全郵政	福島地方支部
〃	鈴木 長治	私鉄総連	福島交通労組福島支部
〃	根本 弘行	情報労連	全電通福島分会
〃	渡辺 彰	福島地区連合議長	県職労
〃	長谷川 由紀	伊達地区連合議長	川俣精機労組
〃	岡部 好典	二本松・安達地区連合議長	全通安達地方支部
事務局次長	菅野 敏夫	連合福島	専従
事務局次長	菅野 栄次郎	全通	福島地方支部
〃	村井 敏美	電力総連	東北電力労組福島支店支部
〃	千葉 幸八	自動車総連	
〃	粟野 啓二	福島地区連合事務局長	日東紡績労組福島支部
〃	小野 富雄	伊達地区連合事務局長	
〃	渡辺 茂典	二本松・安達地区連合事務局長	カンセイ労組二本松分会
幹事	清野 隆	運輸労連	全日通福島分会
〃	蓬田 義一	ゼンキン連合	日ピス労組
〃	佐藤 隆	全水道	福島水道労組
〃	郡司 守進	国交総連・全農林	東北地本福島分会
〃	大倉 冬樹	森林労連	福島営林署分会
〃	菊池 勇	政労連	
〃	鈴木 浩三	建設連合	建職組福島支部
〃	水野 英	鉄鋼労連	
〃	三浦 省一	JR総連	JR東労組福島支部
〃	高橋 紀夫	CSG連合	
〃	大槻 政好	全自交労連	福島支部
〃	岡崎 明	金属機械	伊達製鋼支部
〃	大内 勝市	交通労連	全福島ハイタク労組
〃	山岸 英寿	全国一般	福島中央計算センター労組
〃	高城 秀雄	商業労連	ダックシティ労組福島支部
〃	山田 勝則	ゴム連合	福島ゴム労組
〃	尾形 正義	食品連合	
〃	斎藤 仁一	青年連絡会議長	自治労川俣町職労
オプ加盟幹事	吉田 隆	労福労連	労金労組本店支部
会計監査	本田 泰則	全銀連合	福島地方協議会
〃	高野 三郎	JR連合	JR連合福島地区分連協
職員	渡辺 佐久子		

歴代事務局長

福島地区連合

初代事務局長



粟野 啓二

1992年3月～1997年11月

第2代事務局長



菅野 敏夫

1997年11月～1999年11月

第3代事務局長



林 彪

1999年11月～2011年12月

県北地域連合

初代事務局長



粟野 啓二

1989年11月～1992年2月

第2代事務局長



菅野 敏夫

1992年2月～1997年

第8回 1997.11.15

連合福島第9回定期大会(1997年10月29日開催)において、地域連合の機関会議を廃止する規約改正が行われ、事実上地域連合が廃止され連絡調整機関となりました。



労働福祉会館4F事務所
1998年12月25日まで



松木町事務所
1998年12月26日～現在

2011. 3.11 東日本大震災と福島地区連合の 取り組みについて

第21回 福島地区連合定期大会議案書より



東日本大震災に関する取り組みについて

■ はじめに

2011年3月11日(金)午後2時46分、「マグニチュード9.0東日本大震災」が発生し、未曾有の犠牲者と被害を生み、地震・津波に加え東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質汚染問題は県民とすべての産業に甚大な影響を及ぼしています。こうした中で、福島地区連合として大震災からの救援・復旧に向けた取り組みを進めてきました。

1. 福島地区連合東日本大震災対策本部の設置について

- (1) 連合福島の対策本部の方針に基づき、福島地区連合の「(仮)東日本大震災対策本部(3.14)」を設置(議長・議長代理・事務局長)して対応してきましたが第4回幹事会(4.13)で正式に対策本部を設置しました。
- (2) 設置目的と活動は、東日本大震災に関わるすべての必要な調査、支援、事業の決定について、県北地域・連合福島・構成組織並びに自治体など関係機関との連携を図るため。
- (3) 対策本部構成は下記の通りとしました。
本部長 紺野孝幸
同代理 大槻光政
副本部長 邨松秀紀、菊田浩和、菅藤利和、斎藤春夫、安田和広、大和 修、
事務局長 林 彪
委員 斎藤真一、菅野栄次郎、紺野 淳、

そして、地区連合災害対策本部の中に合議制に基づく「統括委員会」を設置しました。構成は紺野本部長、大槻本部長代理、林事務局長。目的は、即決が求められた場合1人で判断するのではなく組織的に対応するためでした。

2. 東日本大震災被害状況調査について

福島地区連合として、標記の実態調査(別紙)をしました。私たちの働く各事業所も甚大な被害を受け、復旧・再建に向け昼夜を問わず奮闘している中での取り組みとなりましたが、県北地域連合・福島地区連合加盟の内の6割が応えてくれました。尚、調査結果については連合福島に集約しました。その内容は連合福島がすべて管理をしています。

3. ボランティア活動の具体的取り組みについて

福島市に支援物資が全国から届いていました。そして福島市から支援物資の配送についてのボランティア活動要請がありました。具体的には「支援物資受付と配送」「避難所の後片付け」「仮設住宅への物資配送」などでした。ボランティア活動全体の責任は福島市として、連合福島対策本部の承認も受けて取り組みました。そして、第6回幹事会(6.15)に福島市は、この間のボランティア活動に対してのお礼の挨拶にきてくれました。

- (1) 期 間 第1次 2011年4月11日(月)～4月27日(水)
第2次 2011年5月 9日(月)～5月28日(土)

- (2) ボランティア登録と参加者は、福島市災害ボランティアセンターと協議し、登録者111名。ボランティア活動参加者103名。二本松・安達地区連合からも協力を得ました。
- (3) 活動内容 ボランティア参加者の駐車場は東北労金福島支店駐車場を借用しました。そして地区連合事務所に集合し、ボランティア保険の登録(別紙)とミーティングを実施(別紙)して、福島市役所東側「東日本震災支援物資受付所」で具体的な活動内容の指示を受け、ボランティア活動を実施。具体的には、支援物資の配送、避難所の後片付け、仮設住宅への支援物資の配送など。
活動終了後、「まとめ」のミーティング。そして、福島市災害ボランティアセンターへ報告(別紙)、さらに明日の準備をして1日の活動終了。
- (4) 器材の準備
- ①地区連合負担は、軍手・タオル・マスク・ジャンパー・昼食代・飲料水・ティッシュ・カップ・メモ用紙・ペンなど。
 - ②自己負担は、リュック・常備薬・着替え・スニーカー・保険証の写し・帽子など。
 - ③支援物資は、福島交通(株)から2トントラック1台。県生協連から飲料水20箱。
- (5) 具体的な活動内容は、ボランティア参加者の感想(別紙)と地区連合ニュースを参照して下さい。そしてまた、各事業所も甚大な被害を受け、復旧・再建に向け昼夜を問わず奮闘している中でボランティア活動に取り組んでいただいた各構成組織・各加盟組織に感謝を申し上げます。そして、短期間ではありましたが、福島市の要請に応えボランティア活動を通して、地域に顔が見える社会的役割を果たしたものと受け止めています。

4. 福島第一原子力発電所事故の収束に従事する労働者への激励

原発事故が発生した以降、現地作業員は非常に劣悪な労働環境の中、一刻一日も早い事故収束に向けて、昼夜を問わない復旧作業に取り組んでいました。福島地区連合としては、原発事故の現地で働いている東電労組福島第1・2原子力支部の連合組合員並びに作業員への「連帯の寄せ書き『前向きに・一歩ずつ』」を取り組みました。この取り組みは、原発政策とは切り離し、同じ連合福島の労働者としての連帯活動の意味です。具体的には、第6回幹事会で確認して「寄せ書き『前向きに・一歩ずつ』」を連合福島から届けて頂きました。そして、この取り組みは連合福島と各地域・地区連合へと広がりました。東電労組福島第1・2原子力支部からは、福島地区連合の皆様宛に「お礼」の手紙(別紙)が届きました。これからも、福島第一原子力発電所事故の収束に従事する労働者への激励の取り組みを進めることにしました。

5. 放射性物質に関する学習会の取り組み

福島第一原子力発電所事故によって放出された放射能により、県内各地において放射性物質汚染が広がる中、組合員とその家族の健康と安全を守るため、放射性物質に対する正しい知識を身に着けることを目的として学習会を開催しました。

- と き 2011年9月8日(木)
- ところ 福島テルサ
- 主催 連合福島と福島地区連合の共催
- テーマ 「原発事故による放射性物質問題について」
- 講師 みやぎ生活協同組合 食品の安全推進本部副部長
栗石清志氏
- 参加者 約200名

■ 福島地区連合ボランティア（感想、要望）

	構成組織名	活動内容	感想、意見等
4/11(月) 2名	私鉄総連 J P 労組	・支援物資の受け付け補助	
4/11(火) 2名	電力総連 福島地区連合	・支援物資の受け付け補助	
4/13(水) 2名	電機連合	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取からの支援物資の荷降ろし作業および数量確認 ・支援物資を福島市東部研修センターへの移送作業(2往復) ・市役所協の保管場所にある支援物資(水)の数量確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所での荷降ろしは、市役所職員の手伝い(約20名ぐらい)もありそんなに辛くなかったが、その後の東部勤労者研修センターへの移送作業は、移送車2台に乗れる4名での移送となったので体力的に辛かった。(支援物資は水物が多く、水物は重い) ・支援物資の受け入れ管理が行われておらず、来た物を種類分けせずに倉庫に入れているだけなので「何が、どこに、どのくらいある」という事がわからない。支援物資の中には賞味期限の短いものもあり、賞味期限が切れているものもあった。支援物資を有効利用できていない管理体制であると判断せざるを得ない状況。その様な中で、水の在庫を調べるから・・・と言われても無駄に体力を消耗するだけであり、後々の事も考えた受け入れ方法と管理体制をお願いしたい。 ・いろいろな所から支援物資が届くが、もっと必要としているところがあるなら、そちらにまわすように検討する必要もあると感じた。
4/14(木) 1名	全水道	<ul style="list-style-type: none"> ・支援物資の搬入 フライパン、水、布団セット、米等 ①西部勤労者研修センターへ ②東部勤労者研修センターへ 	特になし
4/15(金) 1名	自治労	支援物資の受け入れ、仕分け後東部勤労センターへ搬送 シンガポールからの子供用衣類400点、企業からマスク1500ヶ、県対策本部からジュース600本・角煮25箱等	<ul style="list-style-type: none"> ・市対策本部では個人からの支援物資の受け入れはすでに休止だが、持参してくる個人や電話での問い合わせが5、6件あり。(他の市町村も受け付けていない)
4/20(水) 7名	ゴム連合 私鉄総連 ヘルスケア労協 二本松・安達地区連合	<ul style="list-style-type: none"> ・各支所・学習センターへの備蓄毛布の配布 2tトラック・ワゴン車各1台使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画以上に毛布の配布を実施できた。 ・作業性も問題なし。 ・市職員の対応が良く(説明・行動)作業をスムーズに行うことができた。 ・2tトラックを使用することにより効率よく配送することができた。 ・作業人員は当初5名だったが今回は2名追加して実施した。今後も増員し対応すれば負担が少なく作業できると思う。

4/21(木) 8名	電力総連 全労金 森林労連 電機連合	・各支所・学習センターへの 備蓄毛布の配布 2tトラック・ワゴン車各 1台使用	<ul style="list-style-type: none"> ・市の案内が良かったのでスムーズに実施できた。 ・被災者に1つでも協力できたので良かった。今後も参加したい。 ・毛布の配送でしたが、被災者含め力になれば、また参加したい。 ・市職員の指示、またボランティア員の協力も良く活動はスムーズにできた。被災者のために少しでも役に立てればまた参加したい。 ・もう少し、市職員で詳細な対応をとっていただければもっとスムーズにいけるのでは。
4/22(金) 2名	政 労 連	・受付補助	<ul style="list-style-type: none"> ・その時々状況に合わせ、人員要請をしていただきたい。
4/25(月) 2名	情報労連	<ul style="list-style-type: none"> ・受付補助(ゴム長60箱) ・西部勤労センターにて荷降ろし 	<ul style="list-style-type: none"> ・その時の状況に合わせ人数を調整してほしい。
4/26(火) 2名	私鉄総連	<ul style="list-style-type: none"> ・受付補助 布団、毛布他 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国から善意の物資が届いていることに感謝します。 ・消費期限を確認し、無駄のないようにお願いします。
4/27(水) 7名	交通労連 電機連合 UIゼンセン同盟 二本松・安達地区連合	<ul style="list-style-type: none"> ・無料フリーマーケット あづま総合運動公園体育館 高湯温泉こぼし荘にて ・明日の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者の皆さんが喜んでいました。特に毛布が良かった。一人で3枚ぐらい取りに来た方もいました。 ・吾妻体育館の配布はあと何度か実施した方が良いと思います。 ・一日を通してやや大変ではありましたが、皆さんに物資が少しでも届いて喜んでいただけたと思います。 ・毛布、敷物をもっと多く配布した方が良いと思います。
4/28(木) 6名	運輸労連 国公総連 自動車総連 J A M	<ul style="list-style-type: none"> ・無料フリーマーケット 土湯温泉山水荘 パルセいいざかにて 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場に物資を入れると避難者がどっと来るので、10人ぐらいずつ2分間ぐらいでやれば良いのでは？布団、マットが飛びようになくなった(200枚) ・布団、ラグはトラックから直接配布した。配布ルートは何カ所かに分けないと避難者がまとまり、力のある避難者がとってしまい、高齢者が受け取れない。高齢者にも届くようにしたい。 ・順番に配布しないと混雑してしまうので、子供用、女性用、男性用と分けてやった。パルセは10分くらいでなくなった。 ・長靴もみんな欲しかった。 ・サンライフで必要品が明確でなかったため、職員からの指示を明確にしてほしい。 ・会場をつくるまでの整理が大変。 ・職員とボランティアの連絡を前段にとっておくこと。 ・職員も交代でやっているため、引き継ぎがうまくいっていない。引き継ぎを明確にしてほしい。
5/9(月) 4名	自治労 電機連合 福島地区連合 (他市職員6名)	<ul style="list-style-type: none"> ・西部勤労者センターから市内19カ所の中学校へスポーツドリンクの配送(12kg×706箱) ・2t・1tトラック各1台 ワゴン車2台 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み明けのボランティアで、それも12kgの箱だったので疲れた。 ・ドリンクも期限が5月末とか6月末のものなので、もったいないと思い2日間かける予定の作業だったが、1日で終了させた。 ・このくらいキツイ作業だと、またやりがいも出て来て、学校ごとに休むことなく市職員の指示のもとにスムーズに終了することができた。

<p>5/10(火) 3名</p>	<p>J P 労組 福島地区連合 (他市職員6名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西部勤労者センターでの鹿児島県湧水町からの支援物資の荷降ろし(ペットボトル、カップラーメン、トイレトペーパー、洗剤) ・十六沼体育館の避難所の後片付け (昨日で避難者が0になったため) ・2トントラック1台、市の2トントラック3台、ワゴン車2台、十六沼の職員も含め15名で終了 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国から支援物資が届いていることと、仮倉庫にも支援物資がいっぱい届いていることに驚いた。 ・十六沼公園体育館避難所に150名以上も生活していたことと、その方々は今ここで生活しているのかと思いつながり片付けをしていた。 ・その道路維持管理課の職員は、チームワークがとれていたし、作業も積極的にこなしていた。
<p>5/11(水) 7名</p>	<p>J R 総連 私鉄総連 ゴム連合 全水道 (他市職員2名、 競技場職員6名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今月下旬に信夫ヶ丘競技場で、インターハイが開催されるため、支援物資を音楽堂、西部勤労者センターへ移動した。 ・2トントラック1台、ワゴン車1台他に信夫ヶ丘からトラック1台、市からワゴン車1台 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市は被災地でも災害に遭った方が少ないので、被災に遭った方々の分まで自分たちのできる支援をしたい。 ・市職員と体競技場職員の方々とのチームワークが良かった。
<p>5/12(木) 7名</p>	<p>電機連合 電力総連 全労金 ヘルスケア労協 (他市職員2名、 競技場職員5名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信夫ヶ丘競技場から西部勤労者センター(往復3回)と音楽堂(往復2回)への支援物資の移動 (トイレトペーパー、ティッシュ、消毒液、毛布) ・トラック2台、ワゴン車2台 	<ul style="list-style-type: none"> ・市職員の指示が良く、スムーズに配送できた。 ・直接、被災地、被災者と接していないが、内容は重要なものと感じた。 ・競技場の仮倉庫の支援物資はトラック3～4回で終了できるまで進んだ。 ・仮倉庫にある支援物資の整理が必要、空いているところから物資をおくとあとから大変になる。 ・来週、再来週の活動予定、6月の活動内容については、福島市と協議中。
<p>5/18(水) 6名</p>	<p>UIゼンセン同盟 自動車総連 JR総連 (他市職員2名、 競技場職員2名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援物資の配送(毛布、布団、水190箱)音楽堂⇒飯坂体育館(1回)信夫ヶ丘競技場⇒音楽堂(4回) ・畳の整理 ・軽トラック、バン、ワゴン、2トン車各1台使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動は、今すぐ必要な食品類が中心だった。それ以外にもあることがわかった。畳の裏に「生きていてくれてありがとう。これからも生きていて。ずっとずっと祈っています」「今はつらいけど、みんないることを信じている」などのメッセージがあり、この方々が新しいスタートができるといいと思った。 ・はじめて参加して、やり方やどうやって参加したら良いかわからなかったから、地区連合出まともって参加してやることの意義があると思った。 ・影のボランティアのようでも、支援物資がいっぱいあるので、継続してやることの大切さと表にでない裏方のボランティアがあることもわかった。
<p>5/19(木) 8名</p>	<p>私鉄総連 情報労連 ゴム連合 国公総連 (他市職員2名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援物資の配送(毛布、古着、タオル) 信夫ヶ丘競技場⇒音楽堂(3回) 信夫ヶ丘競技場⇒サンライフ(1回) ・ワゴン2台、2トン車1台使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の内容が厳しくなっていて、今日の天気もあり早めに終わった。 ・被災者に支援物を届けると思っていたので、このような支援があることもわかった。 ・もっと被災者に係わる作業をしたかった。ボランティアとはそういうものだと思っていたが、このような作業があることもわかった。

<p>5/25(水) 5名</p>	<p>J R 総連 全労連 交通労連 (他市職員2名 広島・大阪から の消防隊員8名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援物資の配送 信夫ヶ丘競技場⇄音楽堂→ 笹谷仮設住宅 ・ワゴン車1台、2トン車2 台使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防隊ボランティアに大変お世話になりました。 ・避難されてる方々ももちろん大変だが、物資を運ぶ方々も大変であることを、身をもって感じる事ができた。 ・これからもまだまだ仮設住宅の数も増えてくると思うので、物資も今以上に必要になると感じました。 ・人数は多い方が良いと思う。 ・夏場は体調管理に注意。
<p>5/26(木) 4名</p>	<p>電機連合 電力総連 (他市担当2名、 広島・大阪から の消防隊員6名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車50台の配送 ・毛布の仕分け(分別) 国体記念体育館→笹谷仮設 住宅→市役所→湯野体育館 ・ワゴン1台、2トン車2台、 平ボディトラック1台、 市車輛1台使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・荷物の運搬に対してのトラックの台数が足りない。4トン車もしくは後1～2台の2トン車があれば時間が短縮できると思う ・使用済み毛布の保管状況にもよるが、ダニがいる。消防隊の方は、防虫スプレーを購入し対応していた。(事前に情報を共有していた様子)
<p>5/28(土) 16名</p>	<p>自治労 UIゼンセン同盟 電機連合 情報労連 電力総連 J R 総連 私鉄総連 福島地区連合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)ふくしま自治研修センター体育館の支援物資すべての片付け(大型トラックへの支援物資の積み込み作業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援物資は仮設住宅入居者のためのものであるもので、入居した時にテレビで報道していた際など、地区連合のボランティアでも搬送していたということがわかるように「地区連合ニュース」などでも広報してほしい。 ・他に高校生の野球部や、福大生のボランティアがたくさんきており、お陰で予定より1時間半、早く終わることができた。

福島地区連合の皆様へ

拝啓 残暑の候、皆様ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は、当労組に格別のご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

東北地方太平洋沖大地震発生に伴う福島第一原子力発電所における事故および放射性物質の漏えいにより、大変なご心配とご迷惑をおかけし、心より深くお詫び申し上げます。

このような状況の中、福島第一・福島第二原子力発電所に対し暖かい激励メッセージをいただき、誠にありがとうございます。
いただきました激励メッセージにつきましては、社員宿泊場所内に掲示させていただきますました。

発電所を代表して深く御礼申し上げます。

発電所はまだまだ予断を許さない状況が続いておりますが、皆様の温かい心遣いを糧に、全ての作業従事者の安全と健康を第一義に事故を収束させるべく全力で取り組んでまいります。
福島地区連合の皆様のみならずのご発展をご祈念申し上げます。

書中をもちましてお礼申し上げます。

敬具

平成二十三年 八月 吉日

東京電力労働組合
福島第一原子力総支部 長谷川貴浩
福島第二原子力総支部 阿部 尚彦

東日本大震災被害状況調査書

2011年 月 日現在

加盟組織名		報告者名	
人的被害	① 全組合員が無事 ② 負傷者 有 名 / 無 ③ 死に者 有 名 / 無 ④ その他		
家屋倒壊等の被害	① 半壊 棟 ② 全壊 棟 ③ その他		
会社建屋等の被害	① 仕事が再稼働 ② 仕事ができる状況にない、片付け中 ③ その他（現状を具体的に記入してください）		
組合事務所の被害			
その他			

FAX 福島地区連合536-8216

福島地区連合ボランティア活動報告書

記入者()

日時	2011年 月 日 ()		
参加者名	氏名	加盟組織名	
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
8			
場所			
活動内容			
結果	終了 継続希望あり その他		
感想・意見等			
対策本部 記入欄 (記入者:)			

ボランティア受付簿(初回用)

(3)お名前 氏名	番号 (姓)	生年月日	性別	住所	電話番号	車の運転 可・不可	No. ボランティア保険	受付 日時
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	
		M-T-S-H 年 月 日	男 女	〒	()	可・不可	要・不要	

福島県社会福祉センター

月 日 ()ミーティング

- 自己紹介(ボランティア保険に入っていない方の記入とセンターへの報告)
※ 氏名・組合名・ボランティア活動歴
※ このメンバーは、初めての組み合わせになります。お互いに「声」を掛け合い、1日の活動をするようになりますので、よろしくお願いします。

2、責任者

班 長	携 帯 労 組 名
副 班 長	携 帯 労 組 名

- 3、運転手
- | | |
|------|--|
| ワゴン車 | |
| 2トン車 | |
- ※ 事故のないように、全員で声をかけること。特に、バックの誘導。

- 4、活動内容
- 5、注意事項
- 活動の責任は福島市にあります。したがって、市職員の指示に従うこと。
 - ボランティア保険の関係上、組休は使用できません。(労災保険適用になるため。あくまで年休かボランティア休暇で処理してください)
 - 休憩・昼食は、それぞれ市職員の指示のもとでお願いします。
 - 水・お茶をそれぞれ取ってください。
 - 荷物は、ここにおいても結構です。貴重品は自己責任でお願いします。

- 6、終了後
- 地区連合事務所で1日の簡単なまとめを行い、災害ボランティアセンターに報告します。
 - まとめを終えて解散となります。

7、緊急連絡先

福島市535-1111(若月 次長)
地区連合事務所 536-1395

以上



福島地区連合ニュース

<http://fukushima.jtuc-rengo.jp/> (連合福島ホームページ) → 地域連合 → 福島地区連合 → 福島地区連合ニュース

発行所/福島地区連合 発行人/林 彪 福島市松木町2-20 Tel536-1395 fax536-8216

福島地区連合ボランティア活動

-被災者に1つでも協力ができて良かった！-

3.11 東日本大震災発生から3週間後に、福島市から、これまでボランティア活動を頑張ってくれていた大学・高校生らの学生ボランティアが、学校が始まり4月11日以降来れなくなるため、災害ボランティアに協力していただきたいとの要請が福島地区連合にありました。福島地区連合は第4回幹事会において、ボランティア活動について取り組むことを決定しました。

具体的な活動としては、支援物資受付は1日2名で土日を除く毎日。2トントラック1台（福島交通からの提供）とワゴン車1台を持ち込んでの支援物資の配送は水・木曜日の週2回で1日8名ずつという活動です。

現在まで、ボランティア保険登録者は87名、ボランティア活動に参加された方はのべ47名になりました。皆様の献身的なご協力に感謝いたします。

以下は参加された方の感想・意見などです。

《支援物資受付補助》

- ・その日によって、支援物資が届く日とまったく届かない日もあるので、状況に合わせたボランティアの調整をしてほしい
- ・全国から善意の物資が届いてくることを感謝したい

《支援物資の配送、無料フリーマーケット》

- ・被災者に1つでも協力できて良かった。また参加したい。
- ・無料フリーマーケットでは特に毛布、敷物があつという間になくなった。あと2・3回実施した方が良いと思う。
- ・一日を通してやや大変ではありましたが、避難者の皆様に物資が少しでも届いて、喜んでいただけたと思います。

などがありました。また参加したいという感想も多く少しでも避難者、復興に役立ちたいという思いが感じられました。

5月の地区連合ボランティア活動としては、9日、10日とその後の毎週水・木曜の8日間「支援物資の配送ボランティア活動」を取り組むことにしています。引き続き、皆様の自主的な参加、ご協力をよろしくお願いいたします。



朝の打ち合わせ



信陵支所への物資の配送



無料フリーマーケットの準備



無料フリーマーケットの準備



無料フリーマーケットの準備

前向きに！一歩ずつ！



福島地区連合ニュース

<http://fukushima.jtuc-rengo.jp/> (連合福島ホームページ) → 地域連合 → 福島地区連合 → 福島地区連合ニュース

発行所/福島地区連合 発行人/林 彪 福島市松木町 2-20 TEL536-1395 fax536-8216

福島地区連合ボランティア活動 No.2

-延103名の参加をいただき、一旦無事終了-

福島地区連合としてのボランティア活動は、4月、5月と延103名の参加協力をいただき、福島市職員、広島・大阪からの消防ボランティア、学生ボランティア等の皆様と共に活動してきました。

ボランティア活動の主な内容は、支援物資受付補助、支援物資配送、避難所の無料フリーマーケット、避難所の後片付け、仮設住宅への物資配送、自治研修センターの後片付けなどでした。

5月に入ってから30度を超える真夏日も続き、ボランティア活動内容も重労働になってきましたが、このような中で、被災者のために活動いただいた皆様とボランティア活動に取り組んでいただいた各組合に感謝します。

参加された方々からは「直接被災者と接しないこのようなボランティアがあることが初めてわかった。このようなボランティアも重要な

ことがわかり、参加して良かった。継続してやることの大切さと表に出ない裏方のボランティアがあることもわかった」などの感想が多くありました。また、避難所の後片付けの量の裏に「生きていてくれてありがとう。これからも生きていて。ずっと祈っています」とのメッセージがあり、この方々が新しいスタートができるといいなと思ったなどの感想がありました。

福島地区連合第5回幹事会(5/18)において、6月からは福島市議会議員選挙(7月24日告示日、7月31日投票日)に活動を切り替えることにし、ボランティア活動は一旦5月末で終了することを確認しました。

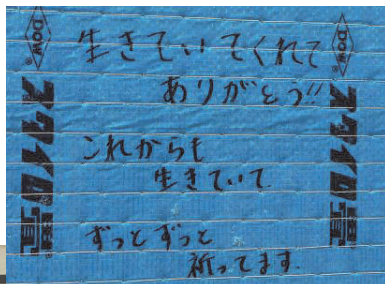


支援物資のトラックへの積み込み



紺野議長を囲んでの打ち合わせ

量の裏に残されていた
メッセージ →



高校の野球部や福大生等の学生ボランティアの皆さんも一生懸命でした。

←



5月28日参加の福島地区連合ボランティアの皆様



福島地区連合ニュース

<http://fukushima.jtuc-rengo.jp/> (連合福島ホームページ) → 地域連合 → 福島地区連合 → 福島地区連合ニュース
 発行所/福島地区連合 発行人/林 彪 福島市松木町 2-20 TEL536-1395 fax536-8216

福島地区連合第6回幹事会を開催

■市からのボランティアお礼■

6月15日(水)福島地区連合第6回幹事会を開催しました。

4月から取り組んだ災害ボランティア活動に対するお礼に福島市商工観光部の若月勉次長がお見えになり、冒頭に「大震災の被害も甚大なものであり、その中でボランティアもはじめての経験でした。支援物資も膨大な量になり、それを仮倉庫への保管、避難所、仮設住宅への配送などのボランティアでしたが、ご協力いただきましてありがとうございました。取り組みの中で課題もありましたが、改善する中で進めてきました。今は、市民の安心と安全を守るため放射能に対する取り組みに全力を挙げています。今後とも、大震災の復興に向けた福島市の取り組みにご理解とご協力をお願いします。」との挨拶をいただきました。



市の若月次長と紺野議長

■原発作業員への激励メッセージの取り組み■

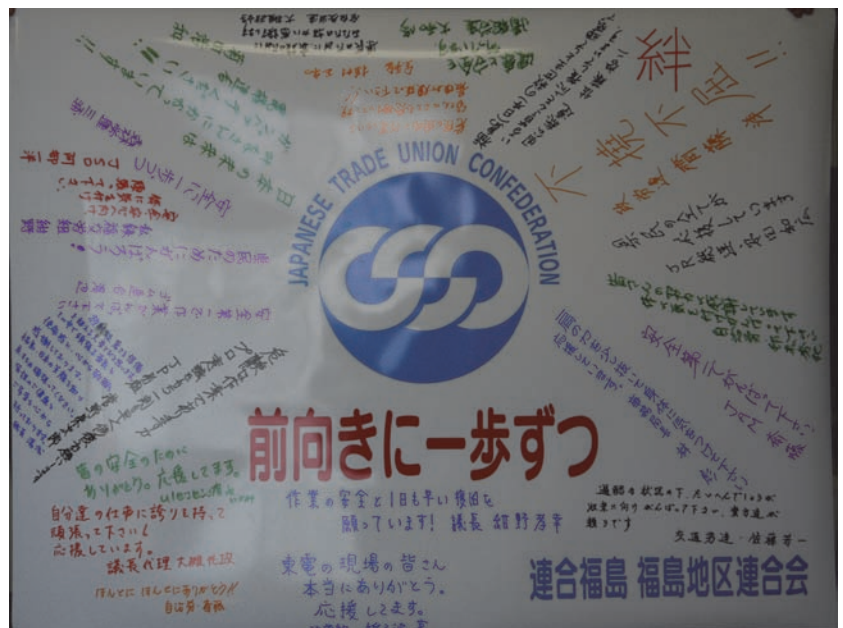


激励メッセージを書く幹事会役員の皆様

議長代理から、「厳しい環境の中で、事故の収束に向け頑張っていることへのご理解と激励に感謝します。また、夏に向けての節電のご協力をお願いします。」との発言がありました。

また、今後の取り組みとして、組合員と家族の健康を守るために、放射能について正しい知識を身につけるための取り組みを企画していくことを確認しました。

同じく、第6回幹事会において、原発事故の収束に向け原発の最前線で頑張っている作業員への「寄せ書き」を取り組みました。現地で働いている東電労組福島第1・2原子力支部の連合組合員並びに同じく働いている作業員を激励するためです。この取り組みに対して、大槻



福島市議会議員選挙

告示日 7月24日(日)

投票日 7月31日(日)

※FAXでは写真が見つからないと思われるので、ホームページからご覧ください。

最後に

原発事故後のエネルギー政策総点検・見直しについては、連合・連合福島・福島地区連合は一体的組織であることから、連合本部第12回定期大会(2011.10.4)の古賀会長あいさつで方向性を示しています。

復興・再生に関して最後に、エネルギー政策について触れておきます。

連合は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を受けて、今年6月の中央委員会で「2012～2013年度政策・制度 要求と提言」を確認した際に、原子力エネルギー政策については凍結し、改めてエネルギー政策の総点検・見直しを行うこととしました。その後、連合三役会においても議論を重ね、方向付けを行ってきました。

まず、エネルギー政策の総点検・見直しにあたっては、「脱原発」や「原発推進」という2項対立の議論を行うべきではないということです。総合的・合理的・客観的なデータに基づき、「安全・安心」「エネルギー安全保障を含む安定供給」「コスト・経済性」「環境」の視点から、短期・中長期に分けた冷静な議論を行う必要があります。また、国民の理解・納得という観点や「国民合意」のあり方にも十分に留意することが求められています。そして、今回の原発事故により、大型の自然災害が不可避なわが国においては、原子力発電所事故が起こり得ること、ひとたび事故が起これば、人々の生活や健康、国土・海洋など広範な環境に甚大な被害をもたらす可能性があることを現実のものとして知ることになりました。このことを踏まえれば、わが国においては、原子力エネルギーに代わるエネルギー源の確保、再生可能エネルギーの積極推進および省エネの推進を前提として、中長期的に原子力エネルギーに対する依存度を低減していき、最終的には原子力エネルギーに依存しない社会をめざしていく必要があると考えます。こうした考えに沿ったエネルギー政策の具体的な見直しは、本大会終了後、速やかに政策委員会の下に「エネルギー政策総点検・見直しPT」を設置して、政府の事故調査・検証委員会の報告なども踏まえつつ、進めていきたいと考えています。

加えて、今後、具体的検討を進めるにあたっての留意事項についても幾つか触れておきます。短期的な課題としては、産業や雇用への影響に十分配慮しながら、エネルギー安全保障の観点を含め、安定的なエネルギー供給を図る必要があります。その際には、定期点検等による停止中原子力発電所の活用についても、周辺自治体を含めた地元住民の合意と国民の理解、安全性の強化・確認を国の責任において行うことを前提に、検討していくことになると思います。

また、エネルギー政策の見直しが産業の空洞化や雇用の喪失に繋がってはならず、むしろ影響を受ける労働者に十分に配慮しつつ、グリーン・ジョブの創出やグリーン・イノベーションに繋げていく必要があります。

エネルギー政策を見直すということは、私たち一人ひとりの生活のあり様を見直すことであり、産業や雇用、働き方にも大きな影響を及ぼすことです。また国際社会におけるわが国の位置づけという視点も重要です。各構成組織・地方連合会の皆さんにも、真摯な議論への参画をお願いしておきたいと思えます。

資 料

連 合 の 進 路

綱 領

基 本 目 標

課 題 と 使 命

連合の進路

綱 領

1. われわれは、自由にして民主的な労働運動の伝統を継承し、この理念の上に立って労働者の結集をはかり、労働運動の発展を期す。
2. われわれは、つねに社会正義を追求するとともに、「力と政策」を備え、完全雇用の達成、労働基本権の確立、労働条件の改善、国民生活の向上を実現する。
3. われわれは、あくことなくよりよい未来に希望をもち、国民の先頭に立ち、自由、平等、公正で平和な社会を建設する。
4. われわれは、労働組合の主体性の堅持につとめ、外部からのあらゆる支配介入を排除し、民主的で強固な組織の確立をはかるとともに、日本労働組合総連合会の強化・発展に努める。
5. われわれは、日本労働運動の国際的責任を深く自覚し、世界平和の達成と諸国民の共存共栄のために努力する。

基本目標

1. われわれは、政府、政党、企業などから独立した自主的組織としての主体性を堅持し、自由にして民主的な労働運動の強化・拡大と労働運動の基盤強化をはかる。
2. われわれは、賃金引き上げと労働時間の短縮、労働環境の改善など労働諸条件の維持・向上をはかり、人間性を優先したゆとりある生活を実現する。
3. われわれは、「力と政策」を強化し、目的と政策、要求を同じくする政党、団体と協力して、完全雇用、物価安定、総合生活の改善・向上をはかり、活力ある福祉社会を実現する。
4. われわれは、中小・零細企業労働者、パートタイム労働者などの労働条件の改善に努め、賃金・労働時間など労働諸条件の格差圧縮をはかる。
5. われわれは、中央、地方、産業、職場での活動を強化しつつ、未組織労働者の組織化を促進し、労働運動を充実・強化する。

6. われわれは、官公労働者および公益産業労働者の労働基本権の完全回復をめざす。
7. われわれは、主権在民、基本的人権、恒久平和を基調とする日本国憲法の理念にそった自由、平等、公正で平和な社会を実現する。
8. われわれは、軍縮、核兵器の全面廃絶と国際緊張緩和のために努力し、世界平和の実現に努める。
9. われわれは、労働運動をはじめあらゆる分野に女性の積極的な参加を進め、男女平等の社会の実現をはかる。
10. われわれは、労働組合の主体性を堅持し、労使対等の原則に立ち、相互の自主性を尊重した労使関係を確立する。
11. われわれは、労働界におけるあらゆる独善的利己的勢力に対し、毅然たる態度をとり、分裂工作を自らの力で排除する。
12. われわれは、綱領の理念を堅持するとともに、官・民はもちろん、構成組織間の相互信頼をよりいっそう深め、これを基盤としたすべての労働者・労働組合の総結集をはかる。
13. われわれは、政権を担いうる新しい政治勢力の形成に協力し、政権交代を可能にする健全な議会制民主主義を実現する。
14. われわれは、「国際自由労連」の一員として、国際的役割を分担し、世界の労働運動の前進に貢献する。

課題と使命

1. 労働戦線統一への流れとその意義

1. 日本における近代的労働運動は、約90年の歴史をもち、戦後だけでも40年余が経過している。

戦後の荒廃した状況下で再建された日本の労働運動は、半世紀に近い歴史の中で、民主主義の確立と労働者の労働条件の改善、国民生活の向上に多大の成果をあげ、労働組合自体も着実な成長をとげてきた。

しかし、その道は決して平たんなものではなく、むしろその歩みは苦難にみちた茨の道のくり返してあった。

2. また、戦後の労働運動は、その再出発の段階から戦前より持越された相互不信と政治的対立を背景として、二つの勢力に分立したままスタートした。それ以降、1950年代前半まで主としてイデオロギーからくる運動理念の対立をもとに、分裂と再編を繰り返してきたが、その背景にあったマルクス・レーニン主義を主唱する特定政党の直接・間接の介入、干渉は目にあまるものがあった。

3. 1960年代以降も、労働組合の結集をはかろうとした労働戦線統一のうねりがあったが、結局、運動理念にかかわる団体間の対立と相互不信を底流として、統一への道はことごとく失敗に終わってしまった。

しかし、1973年のオイルショックを機に、日本経済の低成長と産業・社会構造の変化への労働組合の対応が求められ、民間労働組合は、従来の労働団体の枠をこえた共通認識が高まった。民間労働組合は、相互理解と親愛を深めつつ、労働戦線の統一に不退転の決意で取り組み、1982年12月14日に「全日本民間労働組合協議会」を結成、1987年11月20日に「全日本民間労働組合連合会」に移行し、労働界全体の統一は大きく前進した。

4. われわれは、取りまく環境の変化に対応し、労働運動の強化・発展をはかり、勤労者と国民の期待に応えるため、労働界全体の統一が不可欠であると認識し、そのため懸命の努力を重ねきた。

そして、民間労働組合と官公労働組合の相互信頼を深め、日本労働組合総連合会（「連合」）を結成した。

日本労働運動の悲願であった労働界全体の統一がここに実現し、まさに、労働運動の新しい舞台に希望にみちた光が放たれたのである。

2. 「連合」の役割と責任

1. われわれは、名実ともに「全国中央組織」としての機能、役割を網羅し、構成組織間の相互理解と信頼を深めつつ、自由にして民主的な労働運動の強化・拡大に努める。

そして、過去の失敗を二度とくり返さないとの決意で、労働組合の主体性を堅持し、外部からのあらゆる支配、介入を排除して、労働組合主義にもとづいた強固な組織を確立する。

われわれの「連合」結成への努力を右翼的再編と一方的にきめつけ、教条的な誹謗、妨害をはかろうとする団体、組織に対しては、毅然として対応していく。

2. われわれは、内外の労働者との連携を強め、民主主義にもとづく日本の平和的發展と世界の恒久平和の実現を期す。

そのため、左右の全体主義を排し、民主主義を護り、自由・平等・公正で平和な社会の実現をめざす。

3. われわれは、社会のあらゆる分野での男女平等の実現、働く女性の雇用・労働条件の向上、母性保障の充実、社会環境の改善に取り組む。このため労働組合への女性の積極的参加をはじめ、あらゆる分野への女性の参加を進め、男女平等社会づくりをめざした活動を進める。

4. 労働者の総合生活の改善をめざし、企業・産業・地域レベルの活動とあわせて、「力と政策」を強化しつつ、政策・制度課題の改善を積極的に進める。

われわれは、参加と分権をもとにした地域社会の活性化をはじめ、中央・地方を通じ調和のとれた経済社会の発展など広く国民生活に関連の深い諸課題に関する政策立案と合意形成、その実現と立法化に向けての活動を強化し、労働組合の社会的責任を果たしていく。

5. 賃金闘争を総合生活闘争の一環として位置づけ、労働者の実質生活水準の向上をめざした活動を展開する。

あわせて、労働時間短縮をはじめとする労働条件の維持・向上にむけての活動を推進していく。

そのため、調整機能を高めつつ、構成組織の力(交渉力・ストライキなど)の強化を背景とした闘争態勢を確立し、闘争の前進をはかる。

6. わが国経済に占める中小企業のウェイトと役割は極めて大きい。また、パートタイム労働者などの比重も高まっている。

われわれは、中小・零細企業労働者およびパートタイム労働者などの雇用と生活の安定・向上をはかる立場から、賃金・労働時間など労働諸条件の格差圧縮に努めるとともに、企業基盤の安定・強化のための政策の確立とその実現をめざしていく。

7. 技術革新、高齢化、情報化、国際化をはじめとする経済・社会の構造変化を的確に捉え、新たな時代を先取りした総合的対策を確立し、その推進に全力をあげていく。

また、労働者の意識変化に対応し、労働者の福祉向上、自由な時間の拡大・充実、生涯教育の確立など精神的、文化的な活動にも積極的に取り組んでいく。

8. 労働組合の団結を強化し、「仲間がいる」ことを大切にしながら、組織の強化・拡大を進めていく。

そのため、構成組織相互の理解と信頼をより深める中で、協力関係を強化しつつ、産業別組織の再編・統一、加盟組織の拡大を推進していく。

9. 労働組合組織率の低下傾向に歯止めをかけ、組織率の向上に全力をあげるため、産業別・企業別組織の組織化努力とあわせて、中央・地方における「連合」の総力を結集していく。

同時に、未組織労働者の賃金・労働時間など労働諸条件改善のため、われわれの労働諸条件の成果を未組織労働者に波及させつつ、労働者全体の経済・社会・政治の各面における地位の向上をはかっていく。

10. われわれは、その使命を果たすため、中央とあわせて地方組織の確立・強化をはかり、中央・地方一体となった活動を進めていく。

11. 労働者の相互扶助と福祉の向上は、労働運動の基本であり、労働組合の自主福祉運動を積極的に推進していく。価値観の多様化と労働者生活の状況変化をふまえ、年金、医療、福祉など社会的制度の充実とあわせ、労働者の自主的な福祉共済制度の総合的確立をはかり、生涯設計をより豊かなものにしていく。

12. 今日の日本の政治は、自民党の長期・単独政権の底流に変化の芽生えは見られるものの、野党の分立状態が続いており、現状を打破する新しい政治勢力の形成までには至っていない。
このような中で、「連合」は、政治の流れを転換するための新たな起爆剤的役割を果たす責任がある。
このような労働組合の役割の重要性を自覚し、さらに影響力を強めていく。
また、目的を達成するため、目的と政策、要求が一致する政党、団体とは、相互の自主性を尊重しながら必要に応じ協力して活動を進める。
なお、政党支持については、当面、構成組織の判断に委ねる。

13. 政治・経済の国際化の進展にともない、国際労働運動の分野においてもわが国の経済力に見合った役割と責任をはたさなければならない。
そのため、国際自由労連の一員として、世界の労働者との連帯を強めながら、世界の恒久平和の実現、国際公正労働基準の確立、国際経済社会の新秩序形成に向けての活動を積極的に進めていく。

社会の出来事

1992 (平成4年)

- 6.15 PKO法案成立、自衛隊海外派遣
- 7. 1 山形新幹線開業
- 9.12 毛利衛さんスペースシャトル・エンデバーで宇宙へ
- 10.14 佐川急便疑惑で金丸副総裁辞職へ

1993 (平成5年)

- 6. 9 皇太子さまと小和田雅子さまがご結婚
- 7.12 北海道南西沖地震
- 8. 9 細川連立政権誕生
- 10 冷害で戦後最悪の凶作
- 12 米の部分開放受け入れ

1994 (平成6年)

- 6.30 1年で3人目、社会党村山首相誕生
- 7. 8 向井千秋さん、宇宙へ(日本人女性初)
- 7~9月 日本列島記録的猛暑と水不足
- 10.13 大江健三郎ノーベル文学賞受賞

1995 (平成7年)

- 1.17 阪神大震災で大きな被害
- 3.20 地下鉄サリン事件発生
- 4. 9 無党派知事相次ぎ誕生

1996 (平成8年)

- 2.10 北海道のトンネルで落盤事故
- 4.12 普天間基地全面返還で日米合意
- 5.10 住専処理6850億円投入
- 7.13 大阪府堺市でO-157大量感染
- 8.29 薬害エイズ事件で元帝京大学副学長逮捕

1997 (平成9年)

- 1. 2 ナホトカ号重油流出
- 4. 1 消費税増税実施(5%)に
- 5 総会屋利益供与で野村証券元幹部逮捕
- 6.28 神戸の小6男児殺害で14歳少年逮捕

1998 (平成10年)

- 2.7~22 長野五輪開催、日本[金]5個
- 4. 1 金融ビッグバン始動
- 6.27 仏でW杯開催、日本初出場
- 7.25 和歌山でカレーにヒ素混入、4人死亡
- 11.16 24兆円の過去最大の緊急経済対策が決定

1999 (平成11年)

- 1.29 地域振興券の交付
- 2.28 臓器移植法に基づく初の脳死移植実施
- 5 中国から贈られたトキに赤ちゃん誕生
- 5.24 新ガイドライン関連法が成立
- 7 完全失業率4.9%、過去最悪に
- 9.30 東海村で国内初の臨界事故発生

2000 (平成12年)

- 1.28 新潟で9年間監禁の女性保護
- 4. 1 介護保険スタート
- 6.27 三宅島噴火で9月に全島民避難
- 6.28 雪印乳業の乳製品による食中毒事件
- 7.21 沖縄サミット開催
- 10.10 白川英樹氏がノーベル化学賞受賞

2001 (平成13年)

- 2. 9 ハワイ沖で実習船えひめ丸と米海軍原子力潜水艦が衝突
- 6. 8 大阪池田小に刃物男が乱入
- 9 国内初、狂牛病の牛確認
- 11.25 テロ対策特別措置法成立、自衛艦インド洋へ
- 12. 7 敬宮愛子さま誕生

2002 (平成14年)

- 5.31 サッカー W杯日韓共催
- 8. 5 住民基本台帳ネットワーク稼動
- 9.17 初の日朝首脳会談、拉致被害者帰国へ
- 10. 8 ノーベル賞で日本初のダブル受賞
- 11.14 株価バブル崩壊後の安値更新
- 12. 1 東北新幹線の盛岡、八戸間が開業

2003(平成15年)

- 4. 1 日本郵政公社が発足
- 6. 6 有事関連3法が成立
- 8.25 住民基本台帳ネットワークが本格稼働
- 12. 9 イラクへ自衛隊派遣を決定

2004(平成16年)

- 1. 9 陸上自衛隊と航空自衛隊にイラク派遣命令決定
- 5.22・7.18 北朝鮮の拉致被害者家族が帰国
- 6. 1 佐世保市で小6少女が同級生を殺害
- 8.13~29 アテネ五輪で日本選手史上最多のメダル獲得
- 10.23 新潟県中越地方でM6.8の地震発生、最大震度7を観測
- 11. 1 1万円、五千元、千円の新紙幣発行

2005(平成17年)

- 3.25 愛・地球博(愛知万博)開幕
- 4.25 JR福知山線脱線事故
- 8~9 郵政法案をめぐる衆議院解散、自民党が歴史的勝利
- 10. 1 道路4公団が6分割されて民営化
- 11.15 紀宮内親王が結婚

2006(平成18年)

- 1 民営化への企画準備を行う日本郵政株式会社発足
- 6.20 北海道夕張市が財政再建団体入りの意向表明
- 7.14 日本銀行が5年4ヵ月続いたゼロ金利政策の解除を決定
- 9. 6 秋篠宮妃紀子さま男子出産(悠仁親王)、41年振りに皇室に男子誕生
- 9 安倍内閣発足

2007(平成19年)

- 9.12 安倍首相、政権投げ出し、福田内閣発足
- 10.26 NOVAが経営破綻
食品偽装問題が次々と発覚
消えた年金で国民の怒り爆発

2008(平成20年)

- 2. 7 大相撲暴行事件で元時津風親方と兄弟子を逮捕
- 2.19 イージス艦が漁船と衝突。漁師とその長男が行方不明に
- 6. 8 秋葉原無差別殺傷事件、男が7人を殺傷
- 9 福田首相も政権投げ出し、麻生内閣発足

2009(平成21年)

- 6 足利事件でDNA不一致の菅家さん釈放
- 8. 3 裁判員裁判がスタート、東京地方裁判所で初の公判
- 8.30 衆院選で民主党圧勝。政権交代で鳩山政権誕生
新型インフルエンザが大流行、死者も増加
地方の高速道路が土日祝日、1000円で乗り放題

2010(平成22年)

- 1.19 日航が会社更生法の適用を申請
- 2. 4 朝青龍が引退、泥酔暴行問題で引責
- 3 足利事件再審、菅家さんに無罪判決
- 6.13 小惑星探査機「はやぶさ」帰還

2011(平成23年)

- 3 八百長問題で大相撲春場所中止
- 3 東日本大震災
- 7.17 なでしこ JAPAN、サッカー W杯で世界一
- 11 大阪府と大阪市ダブル選で橋本徹氏が完勝

編集後記

今回の設立20周年記念事業は、2年以上前から始まりました。

20周年当時には3.11東日本大震災が発生したため、まず、記念事業としてレシプションを2011年12月に開催しましたが、記念誌の発行は、延期を余儀なくされました。

この20周年の思い出がぎっしり詰まった記念誌は、われわれ福島地区連合の労働運動の1つの区切りとしなると思います。後世に残る貴重な記念誌になれば大変幸いですし、本記念誌が完成できたことを改めてうれしく思います。

最後になりますが、今回の作成にあたり、ご寄稿をいただきました皆さんと、編集や企画を担当いただきました前福島地区連合事務局長の林様、郡山地区連合事務局長佐久間様、(株)日進堂印刷の皆さんに深く感謝申し上げます。

20周年記念誌 編集委員一同

編集委員 紺野 淳 湯浅 貞子

協力者 林 彪 佐久間 通



 **福島地区連合 20年の記録**

発行：2013年11月1日
発行所：福島市松木町2-20
 連合福島 福島地区連合会
 電話 024(536)1395・024(526)3186
発行／編集：福島地区連合幹事会
印刷：株式会社日進堂印刷所

